

平野区地域福祉計画 ＜第2期＞



平野区の現状（振り返り用参考データ）

平野区役所保健福祉課（地域福祉）

目次

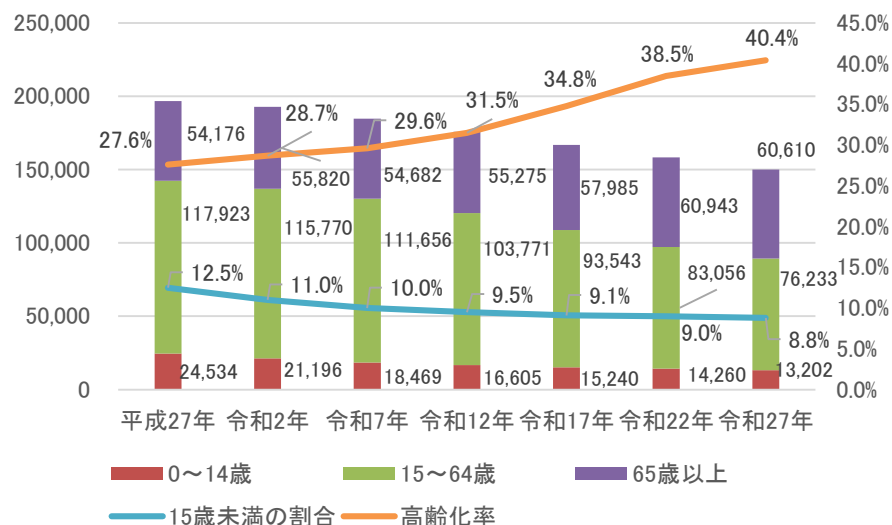
【人口】 人口・世帯	P.1～2	【子育て】 母子・父子世帯	P.25～26
【高齢者】 高齢者数・世帯数	P.3～4	【子育て】 出生数・出生率、乳幼児健康診査受診率	P.27
【高齢者】 総合相談	P.5	【子育て】 子育ての相談・虐待・DV相談	P.28～29
【高齢者】 虐待相談・成年後見制度	P.6	【子育て】 大阪市こども・子育て支援に関するニーズ調査	P.30～33
【高齢者】 介護保険要介護(要支援)認定者	P.7～8	生活保護の状況	P.34～35
【高齢者】 介護施設整備状況	P.9	生活困窮者自立支援事業の状況	P.36
【高齢者】 高齢者実態調査	P.10～16	外国人人口の状況	P.37
【障がい等】 障がいのある方の状況	P.17		
【障がい等】 大阪市障がい者等基礎調査	P.18～24		

人口・世帯

- 平野区の人口は188,606人(令和4年4月1日推計人口)であり、大阪市の人口(2,744,847人)の6.8%を占め、24区中1位となっている。
- 高齢者の人口割合は、令和2年において区の27.8%を占めており、今後も増加傾向にあり、高齢化が一層進展すると推定される。一方、15歳未満のこどもの割合は減少傾向が顕著であり、総人口も大阪市と比べ減少幅も大きくなる見込みである。

平野区の人口と高齢化率、15歳未満の割合の推移
(～令和27年)

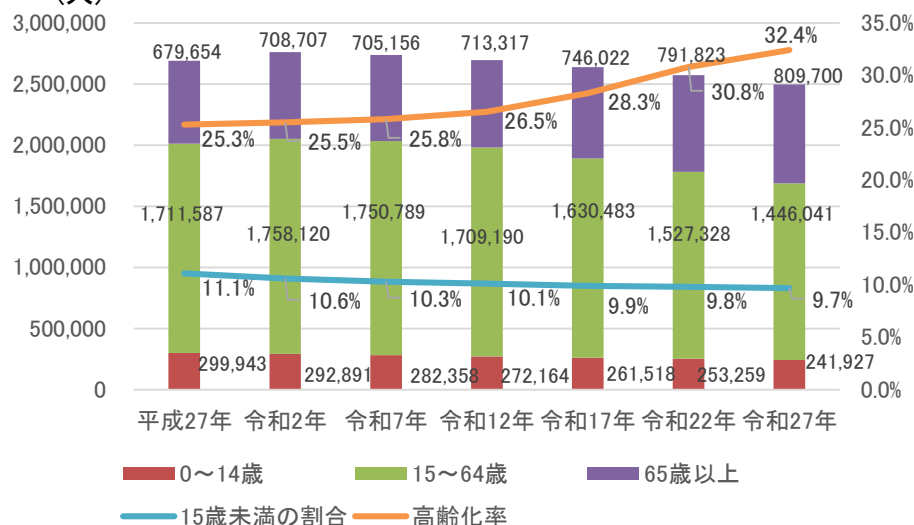
(人)



出典:国勢調査(※令和7年以降は市政策企画室による推計)

大阪市の人口と高齢化率、15歳未満の割合の推移
(～令和27年)

(人)

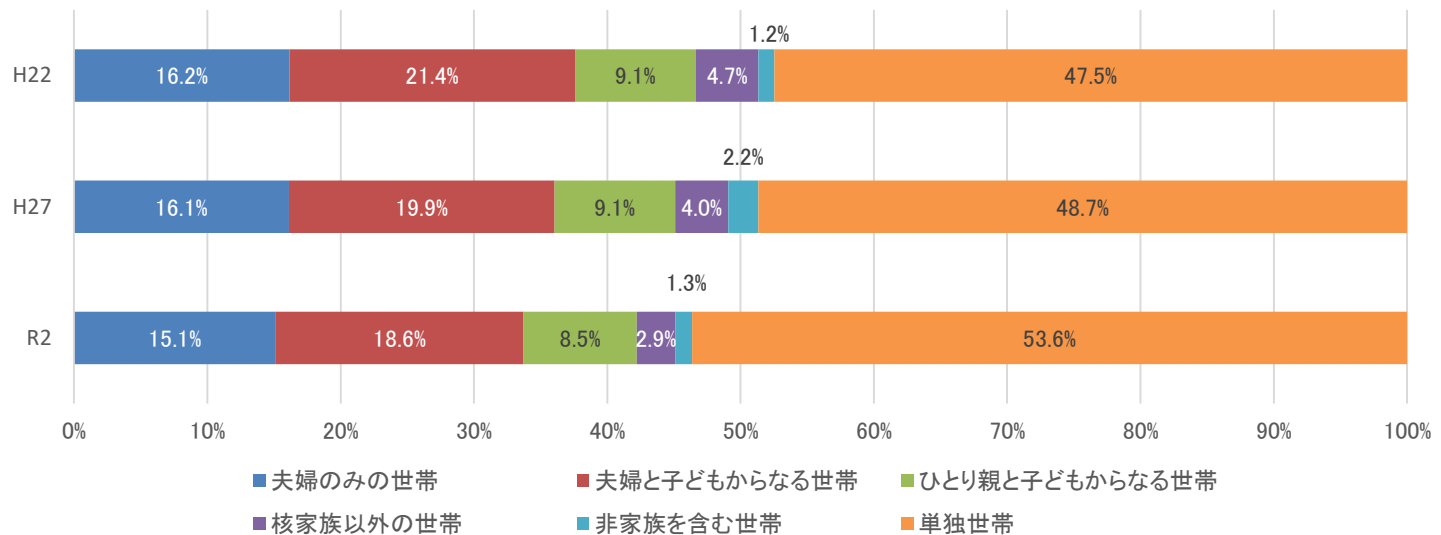


出典:国勢調査(※令和7年以降は市政策企画室による推計)

人口・世帯

- 令和2年における平野区の単独世帯については、44.4%に上り、高齢化の進展に伴い高齢単身者世帯の単独世帯が増加している状況にある。

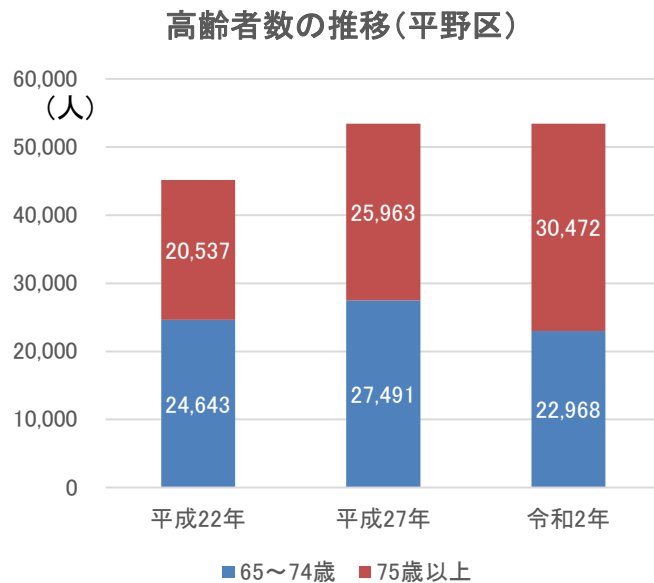
家族類型別一般世帯数の比較(大阪市)



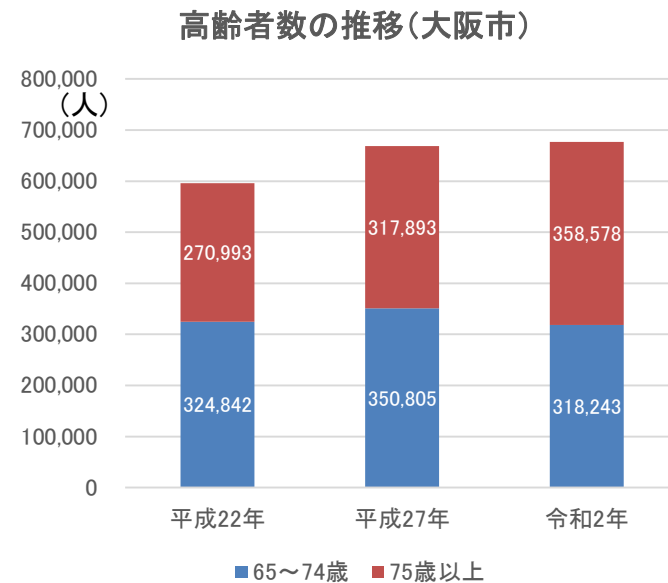
出典: 国勢調査

【高齢者】 高齢者数・世帯数

- 令和2年は平成22年と比較すると、前期高齢者(65～74歳)は約0.8倍(27,643人⇒22,968人)と減少し、後期高齢者(75歳以上)は約1.5倍(20,537人⇒30,472人)に増加しており、後期高齢者の増加が顕著である。



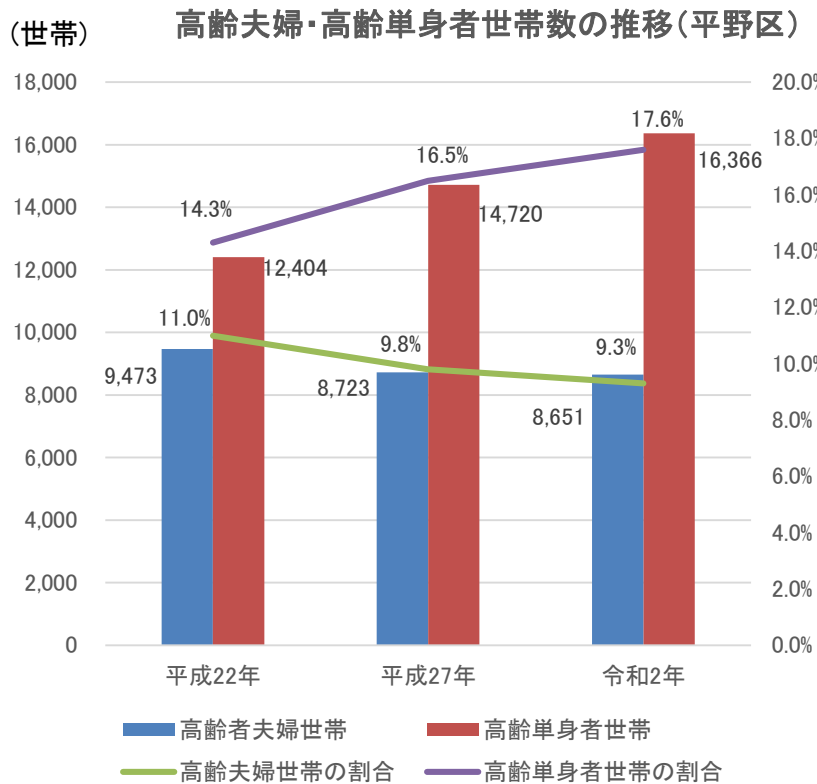
出典:国勢調査



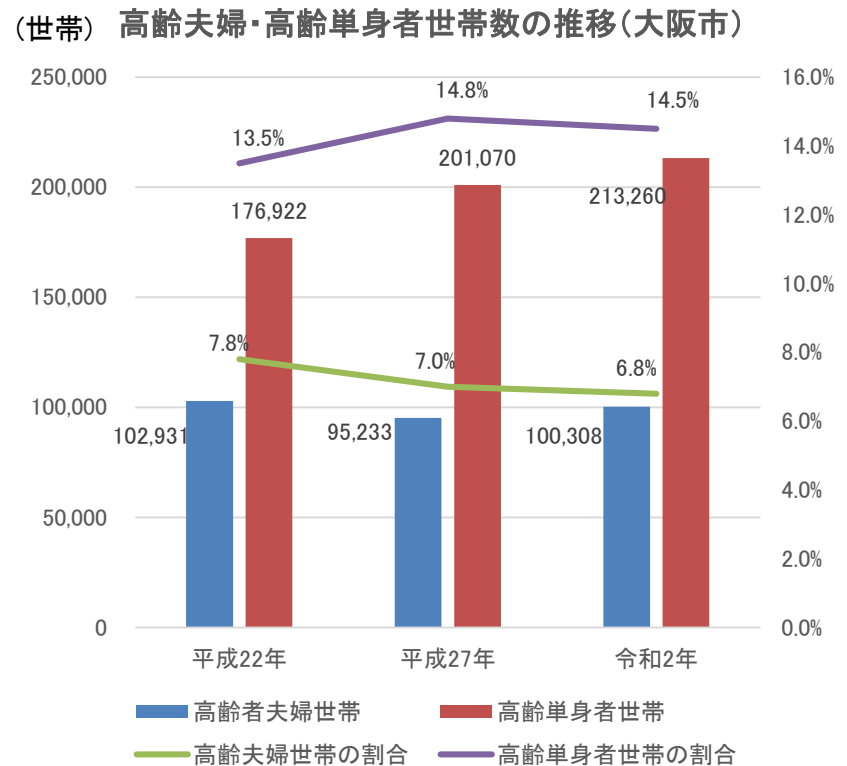
出典:国勢調査

【高齢者】 高齢者数・世帯数

- 高齢夫婦・高齢単身者世帯数の増加が見られ、令和2年には平野区の総世帯の17.6%が高齢単身者世帯、9.3%が高齢夫婦の世帯となっている。大阪市全体と比較して、高齢者夫婦・高齢単身者世帯ともに、総世帯に占める割合が高い。



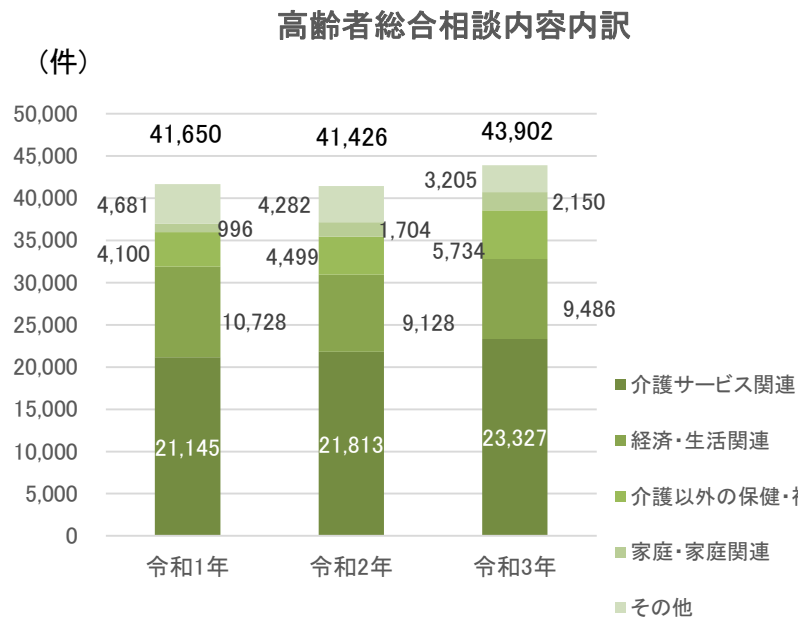
出典: 国勢調査



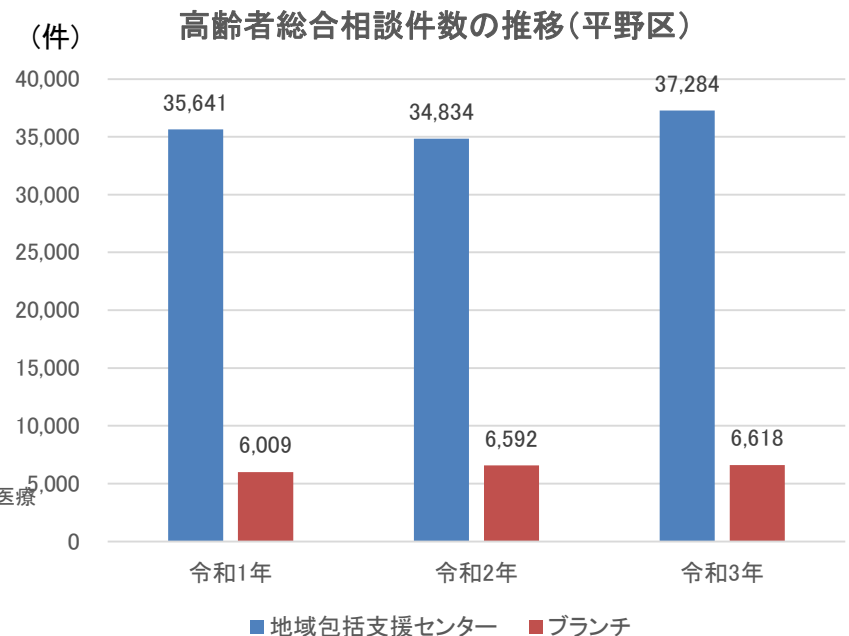
出典: 国勢調査

【高齢者】 総合相談

- 高齢者の相談内容は、介護サービス関連のものが多くなっている。
- 総合相談窓口(ランチ)での相談件数の伸びが顕著である。



出典: 平野区保健福祉課調べ

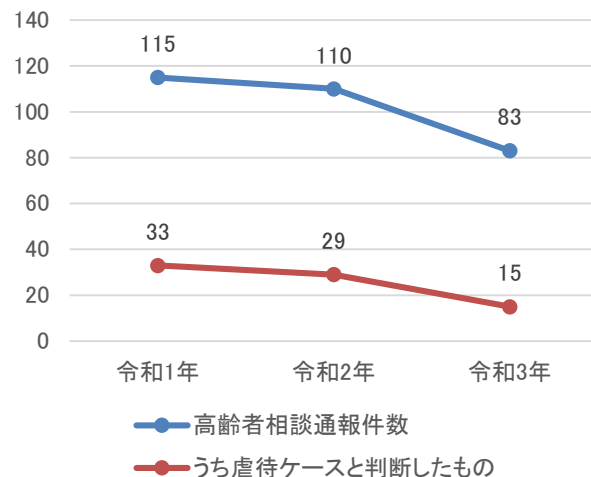


出典: 平野区保健福祉課調べ

【高齢者】 虐待相談・成年後見制度

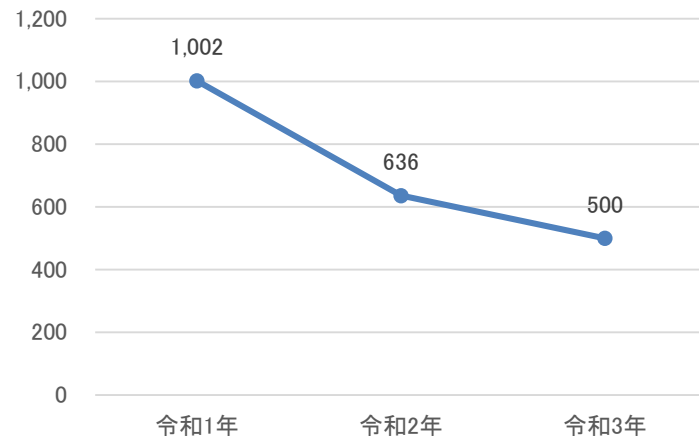
- 高齢者相談通報件数は、ほぼ横ばいの状況であったものの、一時的に減少している。
- 一方、相談件数のうち虐待ケースと判断したものの件数は、平成24年度以降、増減を繰り返している。これは虐待対応の資質向上の取組により相談件数について一定の精査が行われた後においても、なお虐待件数が増加していることが推測される。
- 高齢者総合相談に占める成年後見制度関連の相談は、平成27年度と比較して約2倍に増加している。

(件) 高齢者相談通報件数の推移



出典: 平野区保健福祉課調べ
(各年3月31日現在)

(件) 高齢者総合相談における
成年後見制度関連の相談

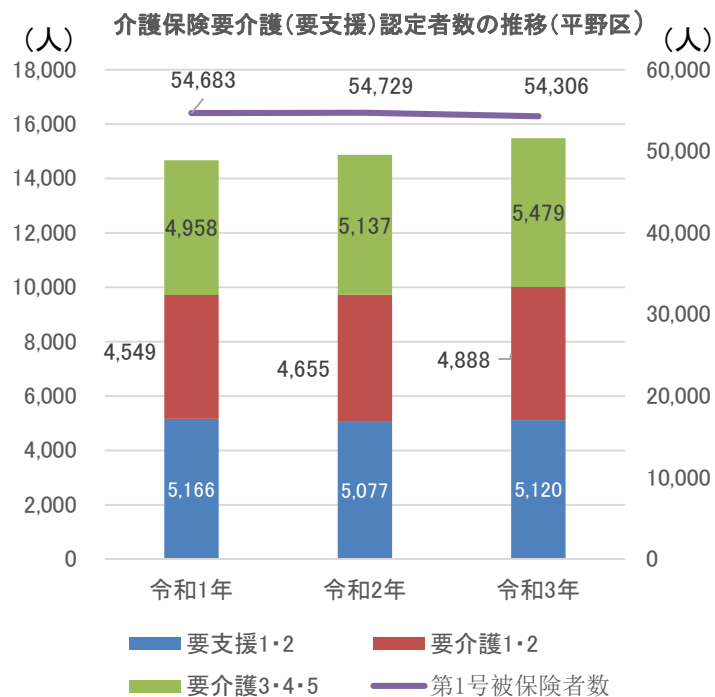


出典: 平野区保健福祉課調べ
(各年3月31日現在)

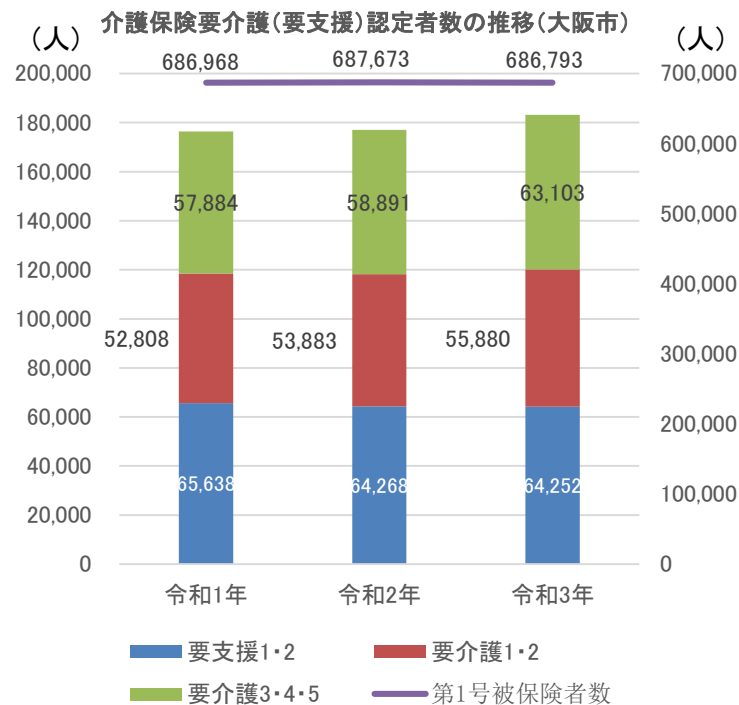
【高齢者】介護保険要介護(要支援)認定者

●介護保険要介護(要支援)認定者

- 令和3年3月末における要介護(要支援)認定者数は15,487人で、介護保険第1号被保険者の28.5%を占めている。令和1年と比較すると、第1号被保険者数は0.7%の減少したが、要介護(要支援)認定者数は5.5%伸びており、大阪市全体と比較すると、高齢者に占める認定者の割合が大きい。



出典: 福祉局統計資料



出典: 福祉局統計資料

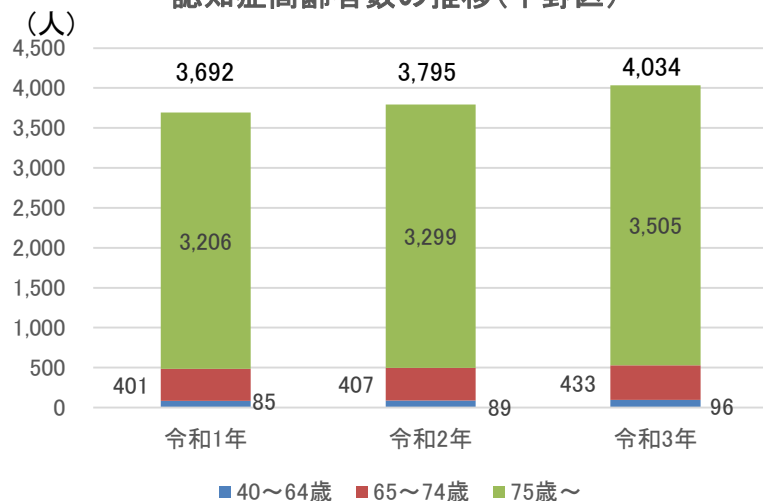
【高齢者】介護保険要介護(要支援)認定者

●介護保険要介護(要支援)認定者

- 認知症の方(※)の数は増加傾向にあり、その86.8%が75才以上である。

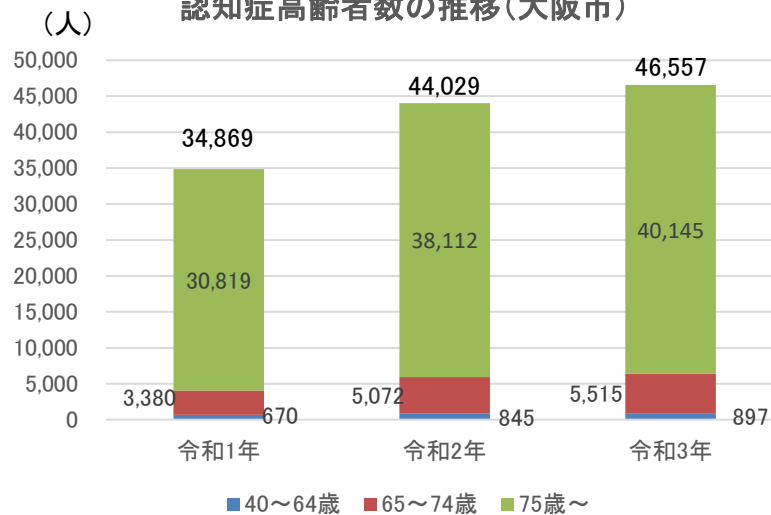
※表における「認知症の高齢者等」は、「何らかの介護・支援を必要とする認知症がある高齢者」とされる「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の人としています。この推計は医学的に認知症と診断されたものではなく、要介護認定における認定調査結果を基に推計したもので、要介護認定を受けていない人は含まれていません。

認知症高齢者数の推移(平野区)



出典: 福祉局調べ

認知症高齢者数の推移(大阪市)



出典: 福祉局調べ

【高齢者】 介護施設整備状況

- 介護施設は、大阪市の計画に基づき整備が進められている。

介護施設状況

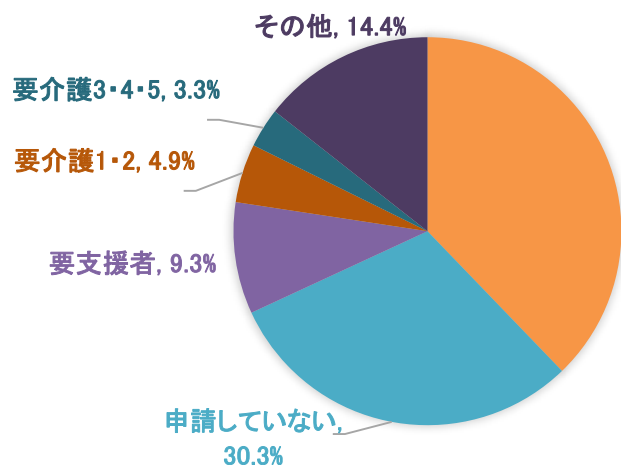
施設種別	平野区		大阪市	
	施設数	定員数	施設数	定員数
介護老人保健施設	7	532	85	8,044
介護老人保健施設(特別養護老人ホーム)	17	1,256	166	14,441
有料老人ホーム	52	2,098	397	18,013
地域密着型サービス事業者小規模多機能居宅介護	10	268	76	1,898
地域密着型サービス認知症対応型共同生活介護(GH)	21	417	233	4,738
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	23	6	155
	施設数	戸数	施設数	戸数
大阪市サービス付き高齢者向け住宅	26	927	189	8,735

出典:福祉局調べ

【高齢者】 介護保険(高齢者実態調査:大阪市)

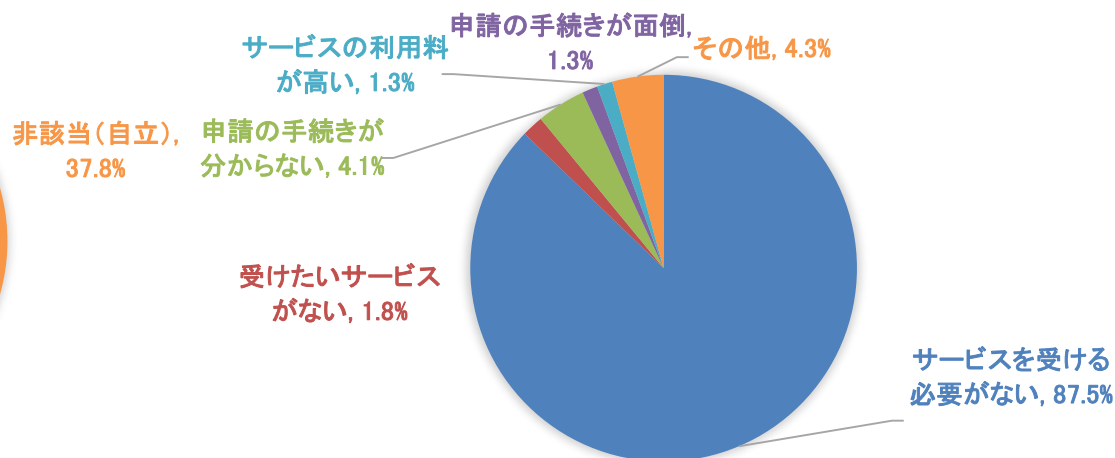
- 65歳以上の高齢者の介護保険の申請・認定の状況は、「非該当(自立)」が最も多く、次いで「申請していない」をあわせると約7割となっている。また、認定は「要支援1」「要支援2」が多く、比較的軽度な人が多い。
- 申請していない理由としては、「介護サービスを受ける必要がない」が大部分を占めるが、手続きの方法や経済的な理由により申請に至っていない人が約5%となっている。

介護保険の申請・認定状況(平野区)



出典: 高齢者実態調査報告書(大阪市)令和1年3月

介護保険を申請しない理由

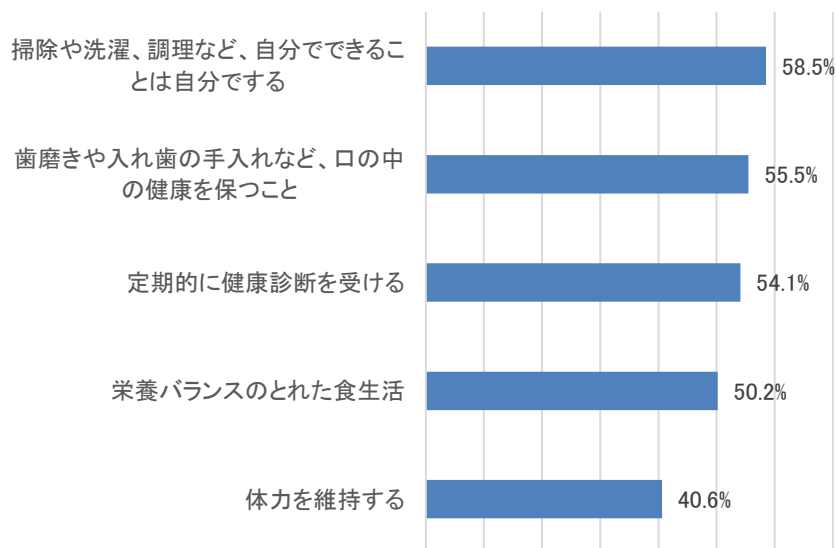


出典: 高齢者実態調査報告書(大阪市)令和1年3月

【高齢者】健康意識(高齢者実態調査:大阪市)

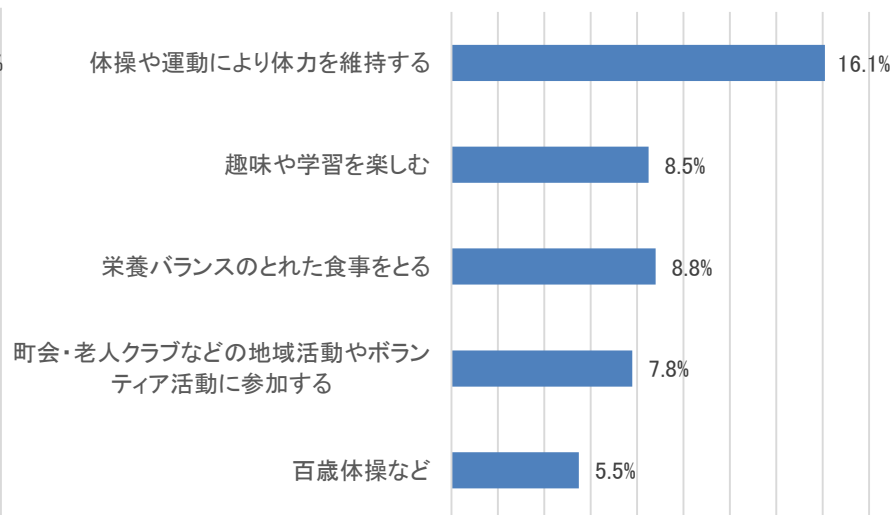
- 現在の健康への留意状況では、「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分です」「口の中の健康を保つこと」が上位を占める。
- 今後の健康のために取り組みたいことは、「体力を維持するための運動」「趣味や学習を楽しむ」の順番となっている。

健康のために気をつけていること



出典: 高齢者実態調査報告書(大阪市)令和1年3月

今後健康のために取り組みたいこと

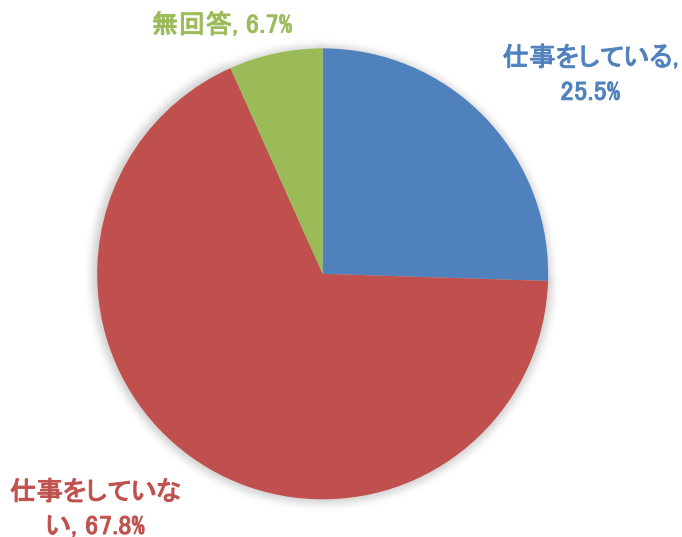


出典: 高齢者実態調査報告書(大阪市)令和1年3月

【高齢者】 就労（高齢者実態調査：大阪市）

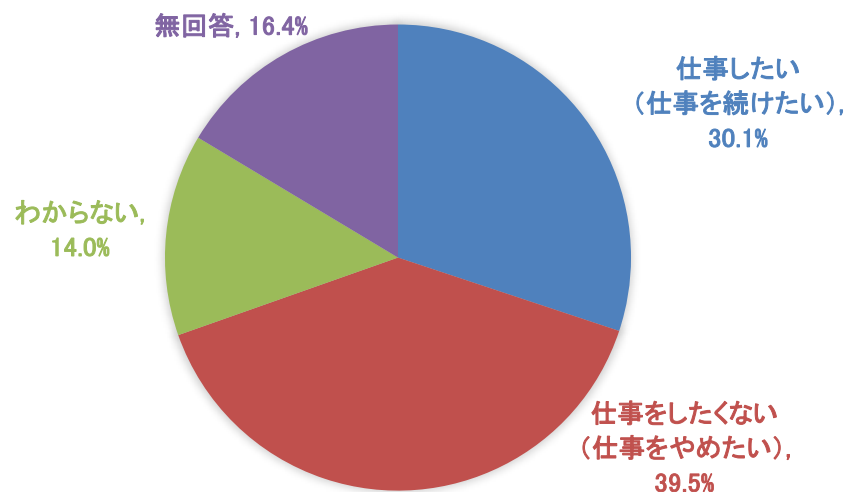
- 収入のある仕事については、「仕事をしている人」が2割となっており、就労意向の「仕事をしたい」とする人が3割程度いる。

就労の状況



出典：高齢者実態調査報告書（大阪市）令和1年3月

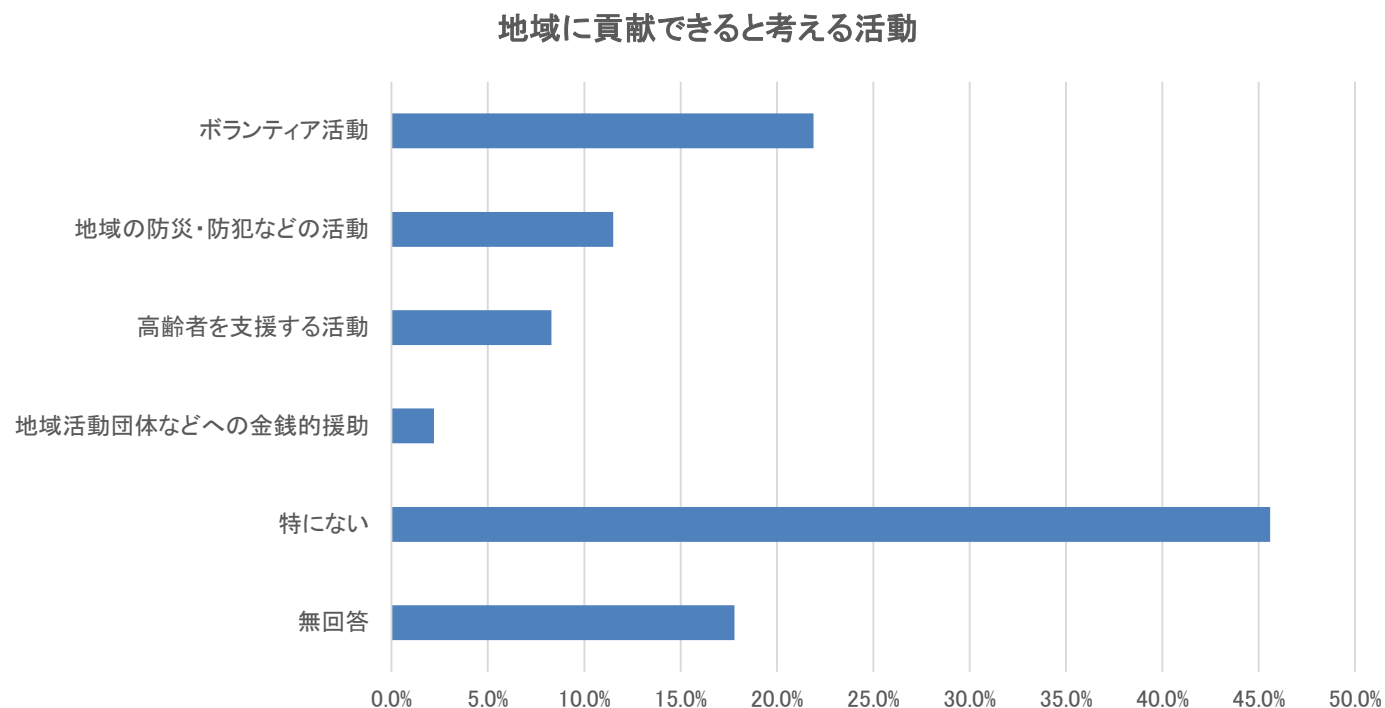
就労の意向



出典：高齢者実態調査報告書（大阪市）令和1年3月

【高齢者】 地域活動への意識(高齢者実態調査:大阪市)

- 地域社会に貢献できると考える活動については、「ボランティア活動」に続き「地域の防災・防犯などの活動」「高齢者を支援する活動」を挙げている人が多い。一方で地域に貢献できることは「特にない」とする意見も多い。

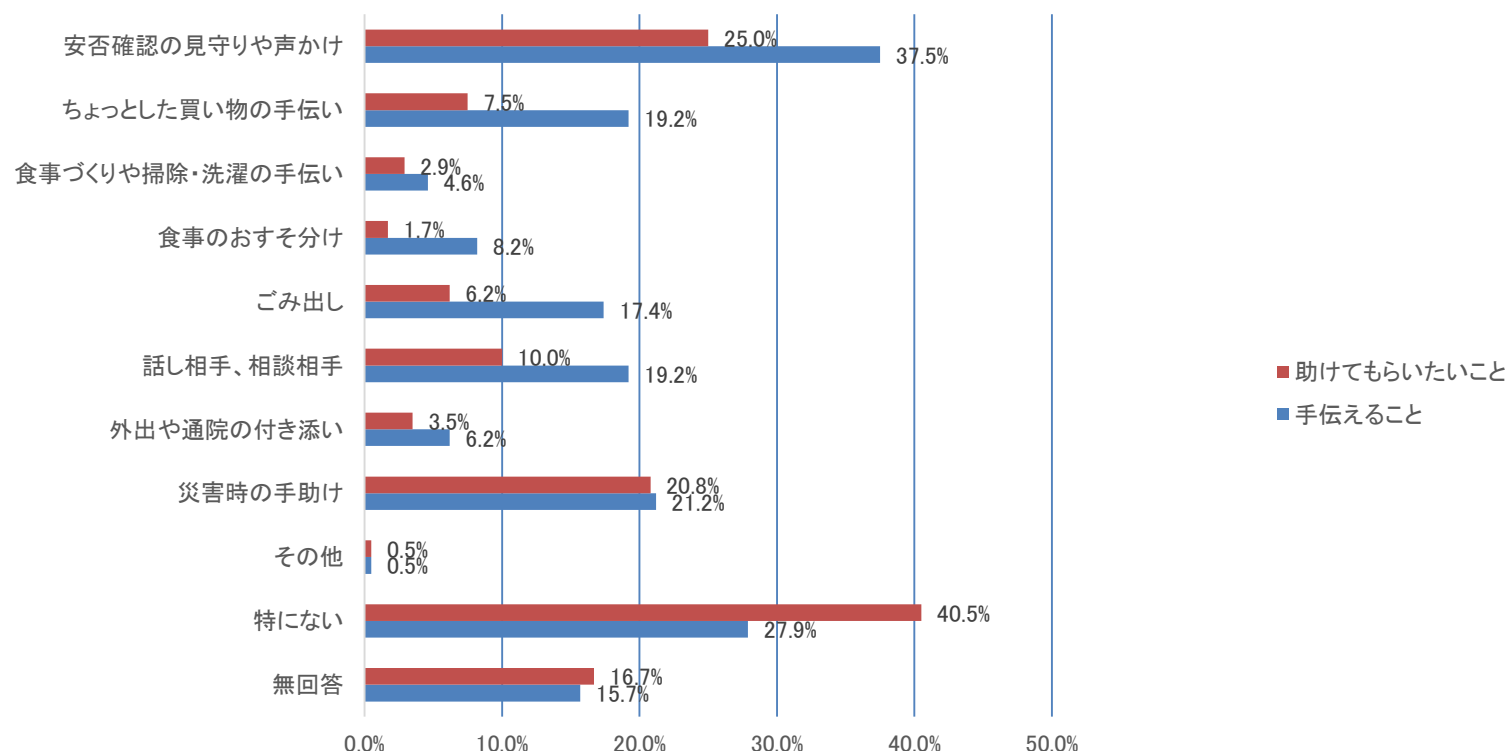


出典: 高齢者実態調査報告書(大阪市)令和1年3月

【高齢者】 地域活動への意識(高齢者実態調査:大阪市)

- 近所の方が困っている時に手伝えることについては、「安否確認に見守りや声かけ」が最も多く、「特にない」「災害時の手助け」「話し相手、相談相手」「ちょっとした買い物の手伝い」の順になっている。
- 助けてもらいたいことについては、「特にない」が最も多く、次いで、「安否確認の見守りや声かけ」の順となっている。

近所の方が困っている時に手伝えること

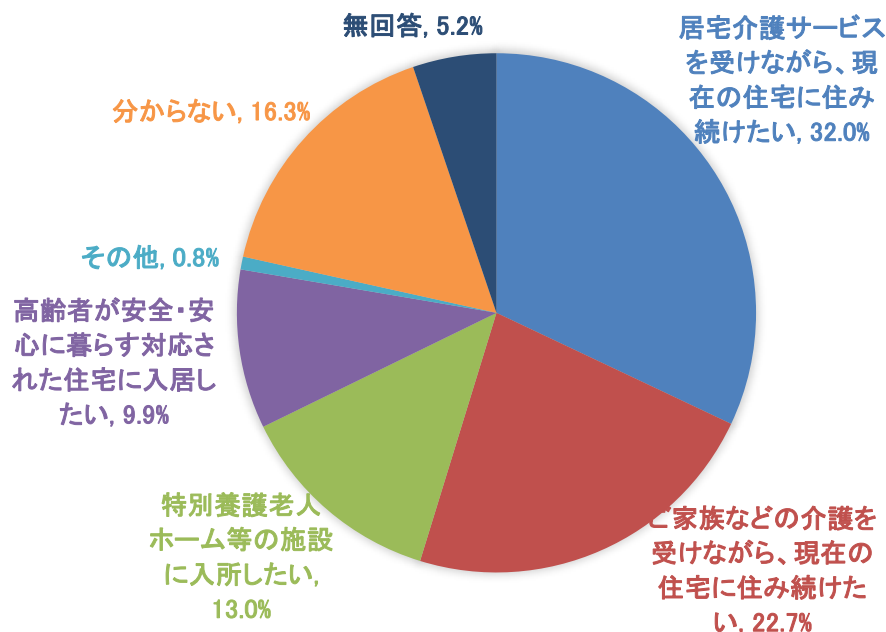


出典: 高齢者実態調査報告書(大阪市)令和1年3月

【高齢者】 希望する暮らし方・支援(高齢者実態調査:大阪市)

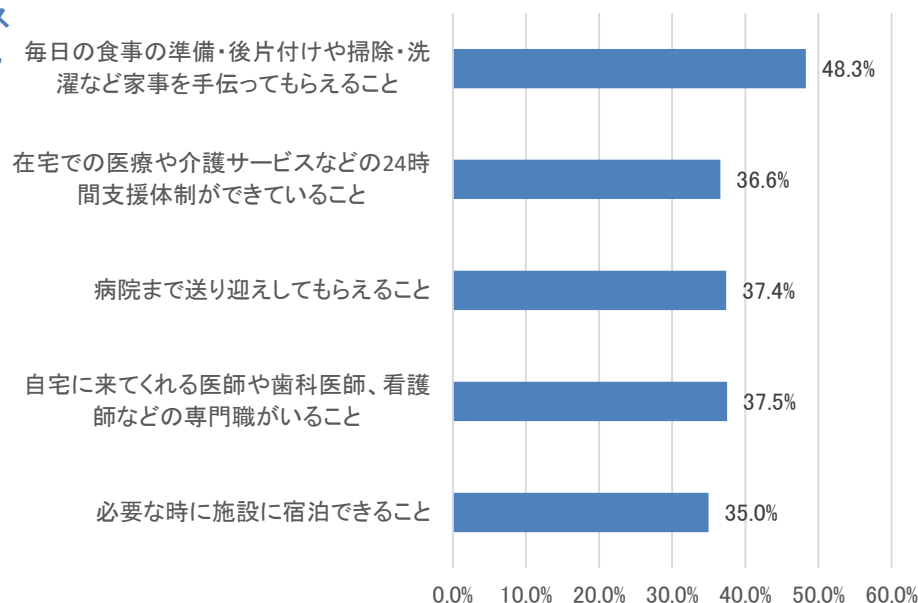
- 将来、介護や援護が必要になった場合に希望する暮らし方については、「居宅介護サービスや家族などの介護を受けながら現在の住宅に住み続ける」とした者が5割を超えている。
- 在宅生活継続のために必要な支援としては「家事の手伝い」「在宅医療・介護サービスの24時間支援体制の整備」「病院までの送迎」が上位となっている。

介護が必要になった場合に希望する暮らし方



出典: 高齢者実態調査報告書(大阪市)令和1年3月

自宅での生活をするために必要な支援

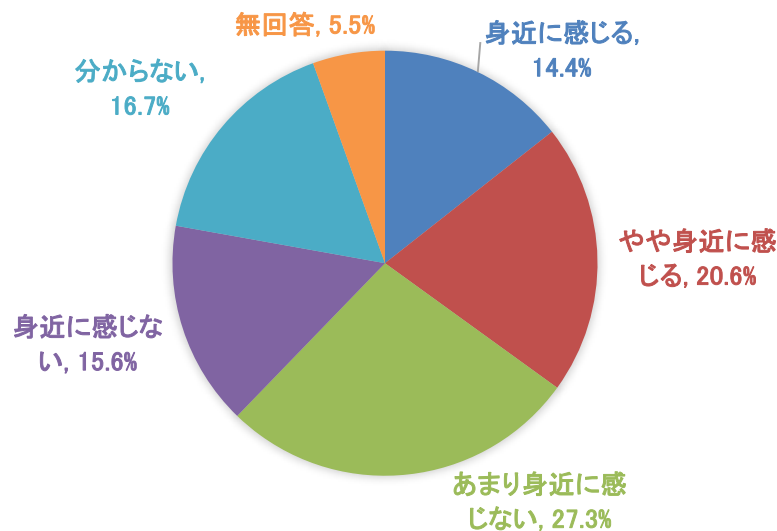


出典: 高齢者実態調査報告書(大阪市)令和1年3月

【高齢者】 孤立死(高齢者実態調査:大阪市)

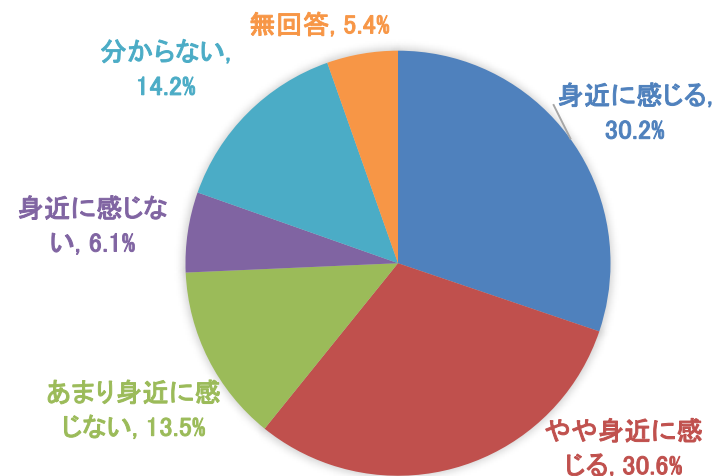
- 孤立死については、高齢者世帯では「あまり・まったく 身近に感じない」とする者が42.9%となっている一方で、「とても・やや身近に感じる」とする者が35.0%存在する。ひとり暮らし世帯においては前者が19.6%、後者が60.6%であり、ひとり暮らし世帯の方が身近に感じている。

孤立死について



出典: 高齢者実態調査報告書(大阪市)令和1年3月

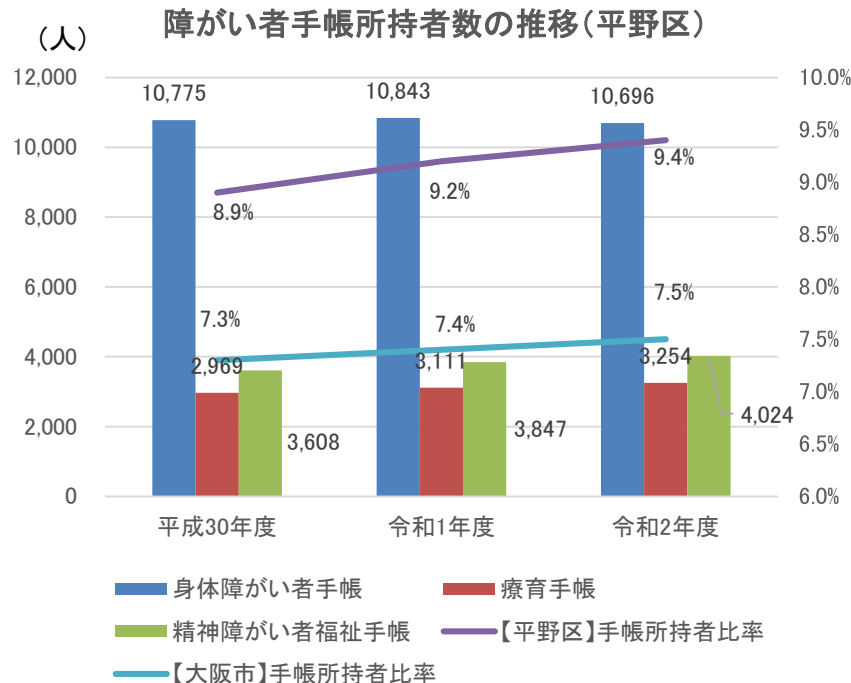
孤立死について(ひとり暮らし)



出典: 高齢者実態調査報告書(大阪市)令和1年3月

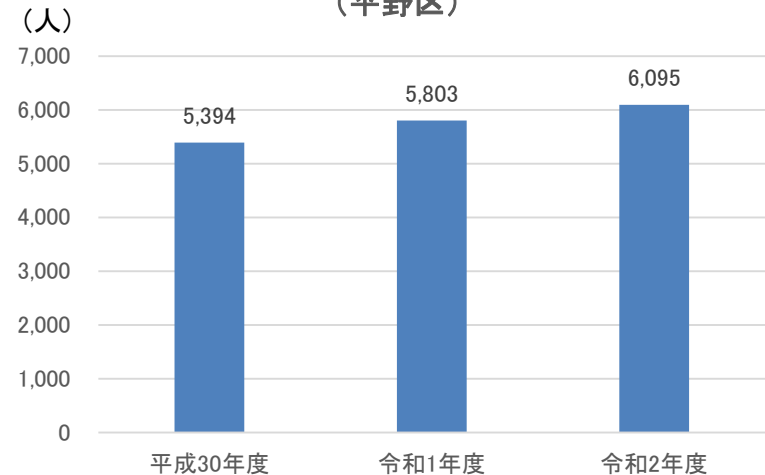
障がいのある方の状況(平野区)

- 令和3年3月末における障がい者手帳の所持者数は、身体障がい者手帳が10,696人、療育手帳が3,254人、精神障がい者保健福祉手帳が4,024人である。過去3年間、平野区においては、手帳保持者比率が増加しており、大阪市全体よりも高い割合となっている。
- 平成27年と比較すると、療育手帳が27.8%増、精神障がい者手帳が32.8%増になっている。



出典: 福祉局統計資料

自立支援医療(精神通院)受給者数の推移(平野区)

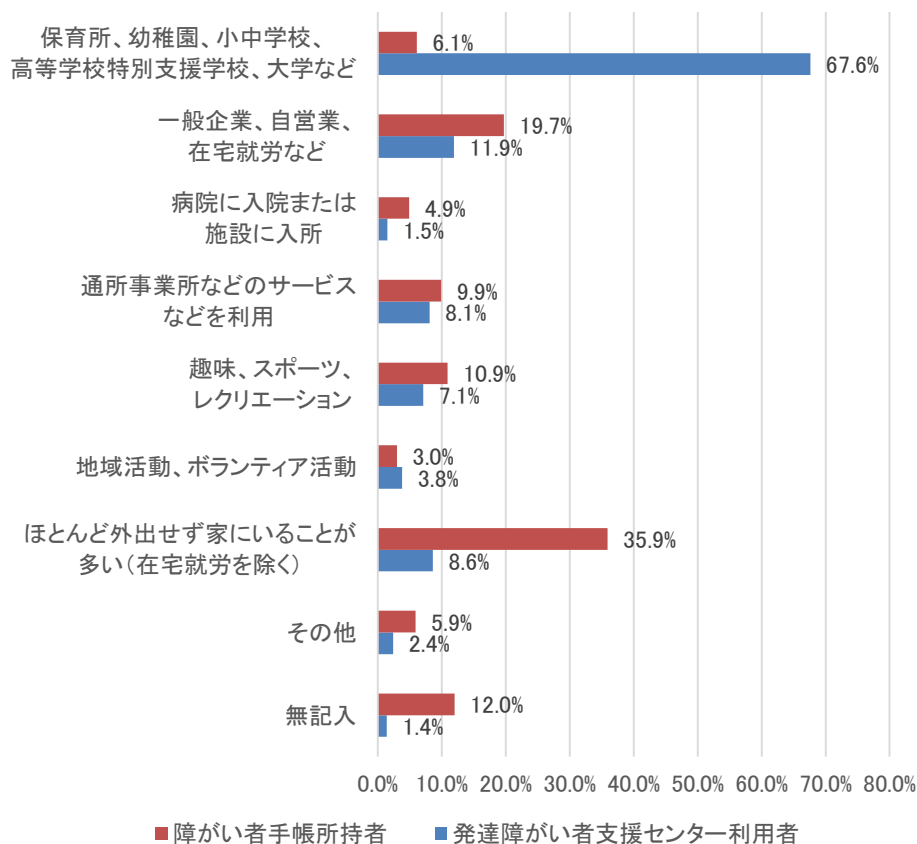


出典: 福祉局統計資料

【障がいのある方等】日中の活動拠点（障がい者等基礎調査：大阪市）

- ・ 日中の主な活動場所については、障がい者手帳所持者で「家にいることが多い」が3割以上を占め、発達障がい者支援センター利用者は7割以上の者が教育機関や就労先で活動している。
- ・ 大阪市の障がい福祉サービス事業所の約1割が平野区で開所している。

日中の主な活動（複数回答）



出典：令和1年度大阪市障がい者等基礎調査報告書

障がい福祉サービス事業所数（令和4年5月現在）

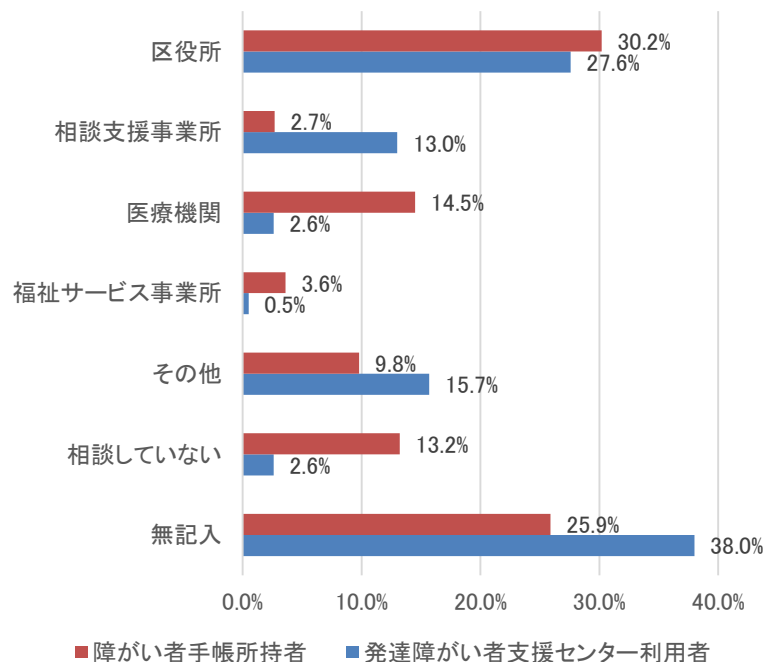
	大阪市	平野区
訪問系サービス	4,736	425
短期入所・日中活動系サービス	563	61
居住系サービス	442	60
相談系サービス	906	67
障がい児サービス	1,862	126
合計	8,509	739

出典：大阪市福祉局調べ

【障がいのある方等】相談先・問題点(障がい者等基礎調査:大阪市)

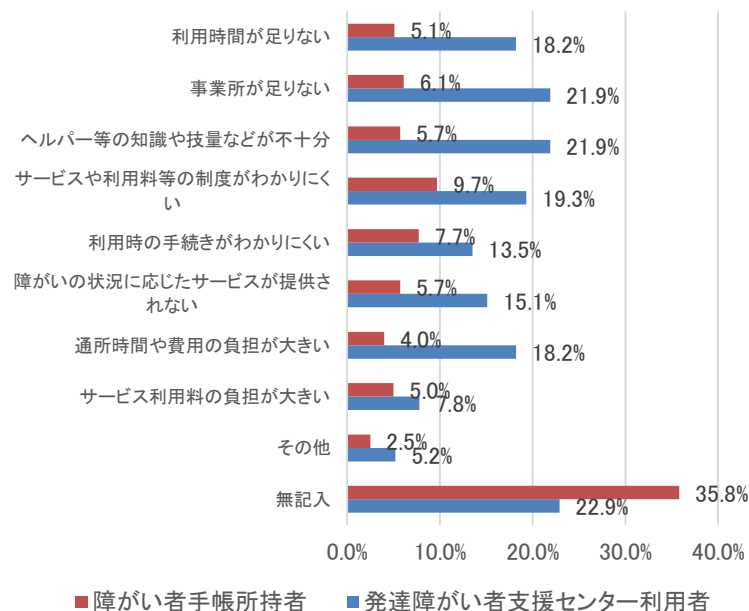
- 障がいサービス利用にあたっての主な相談先は、障がい者手帳所持者で「区役所」や「医療機関」、発達障がい者支援センター利用者で「区役所」「相談支援事業所」が多い。
- 障がいサービスを利用しているの問題点については、障がい者手帳所持者で「サービスや利用料等の制度がわかりにくい」「利用時の手続きがわかりにくい」、発達障がい者支援センター利用者で「事業所が足りない」「ヘルパー等の知識や技量などが不十分」と感じているものが多い。

障がいサービス利用にあたっての主な相談先



出典: 令和1年度大阪市障がい者等基礎調査報告書

障がい福祉に関するサービスを利用しているの問題点

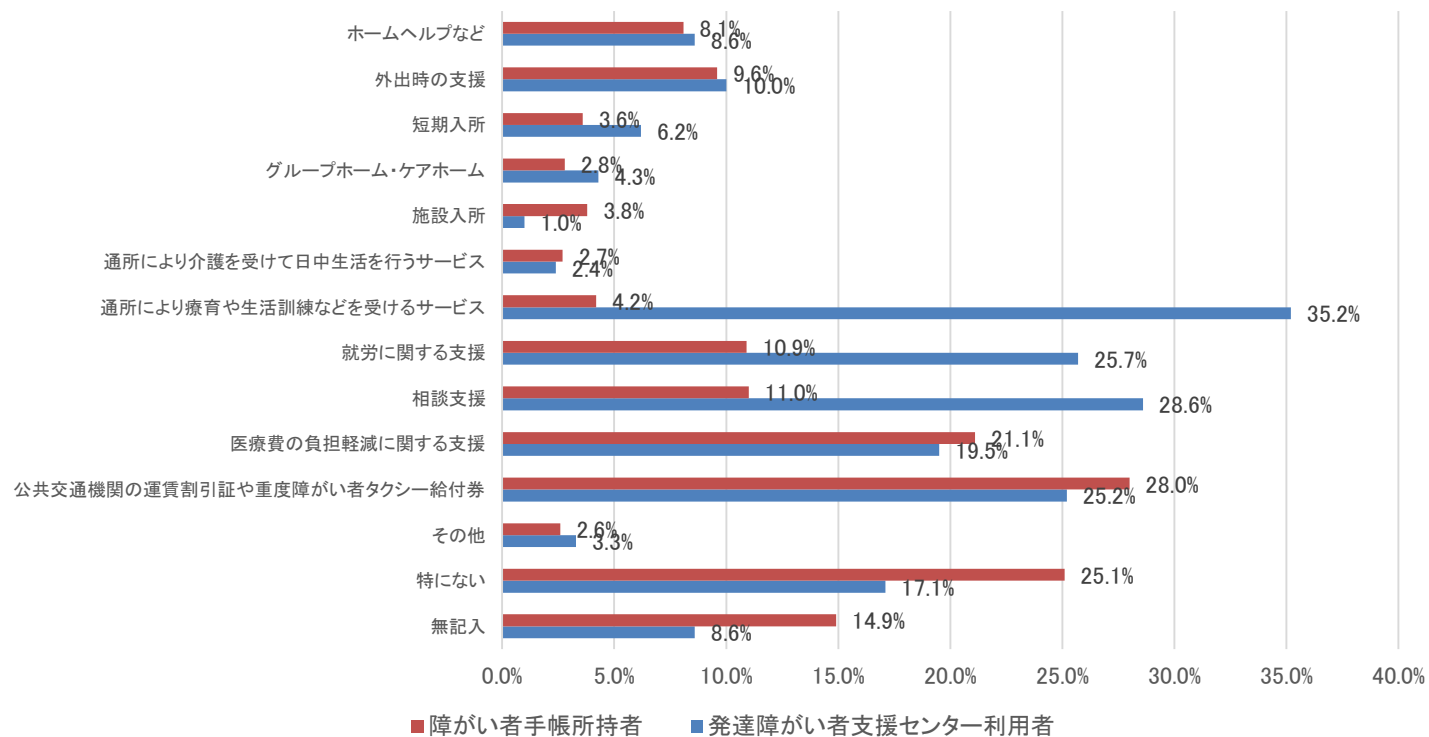


出典: 令和1年度大阪市障がい者等基礎調査報告書

【障がいのある方等】利用したいサービス(障がい者等基礎調査:大阪市)

- 障がい者手帳所持者では「公共交通機関の運賃割引証や重度障がい者タクシー給付券」が最も多く、次いで「医療費の負担軽減に関する支援」「相談支援」が多い。
- 発達障がい者支援センター利用者では「通所により受けるサービス」が最も多く、次いで「相談支援」「就労に関する支援」が多い。

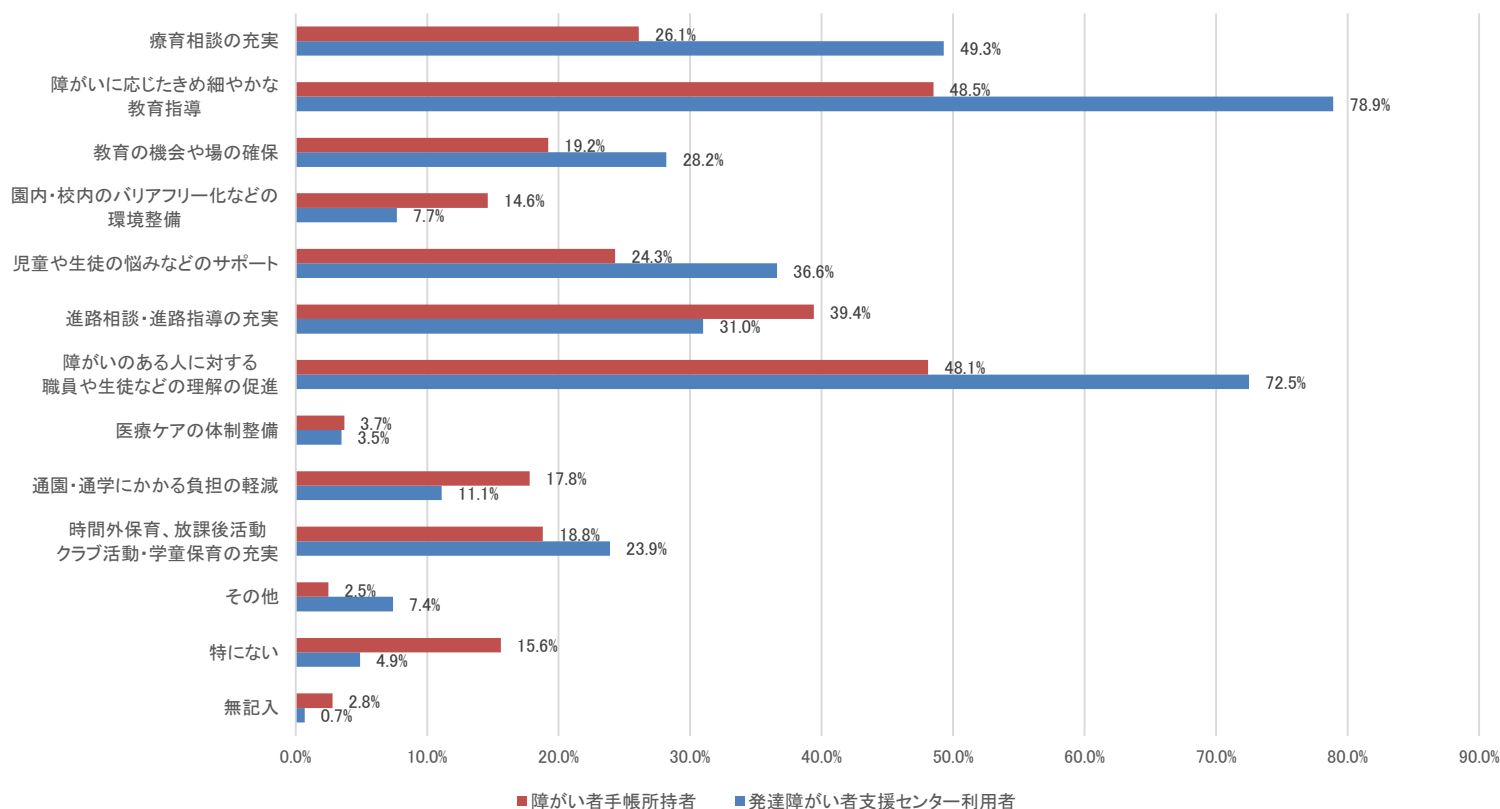
今後利用したいと思う障がい福祉サービス(複数回答)



【障がいのある方等】教育に関すること(障がい者等基礎調査:大阪市)

- 保育や教育で充実してほしいことについて、障がい者手帳所持者で「障がいに応じた決め細やかな教育指導」と「障がいのある人に対する職員や生徒などの理解の促進」が多く、発達障がい者支援センター利用者ではこれに加え、「療育相談の充実」「児童や生徒の悩みなどのサポート」も多い。

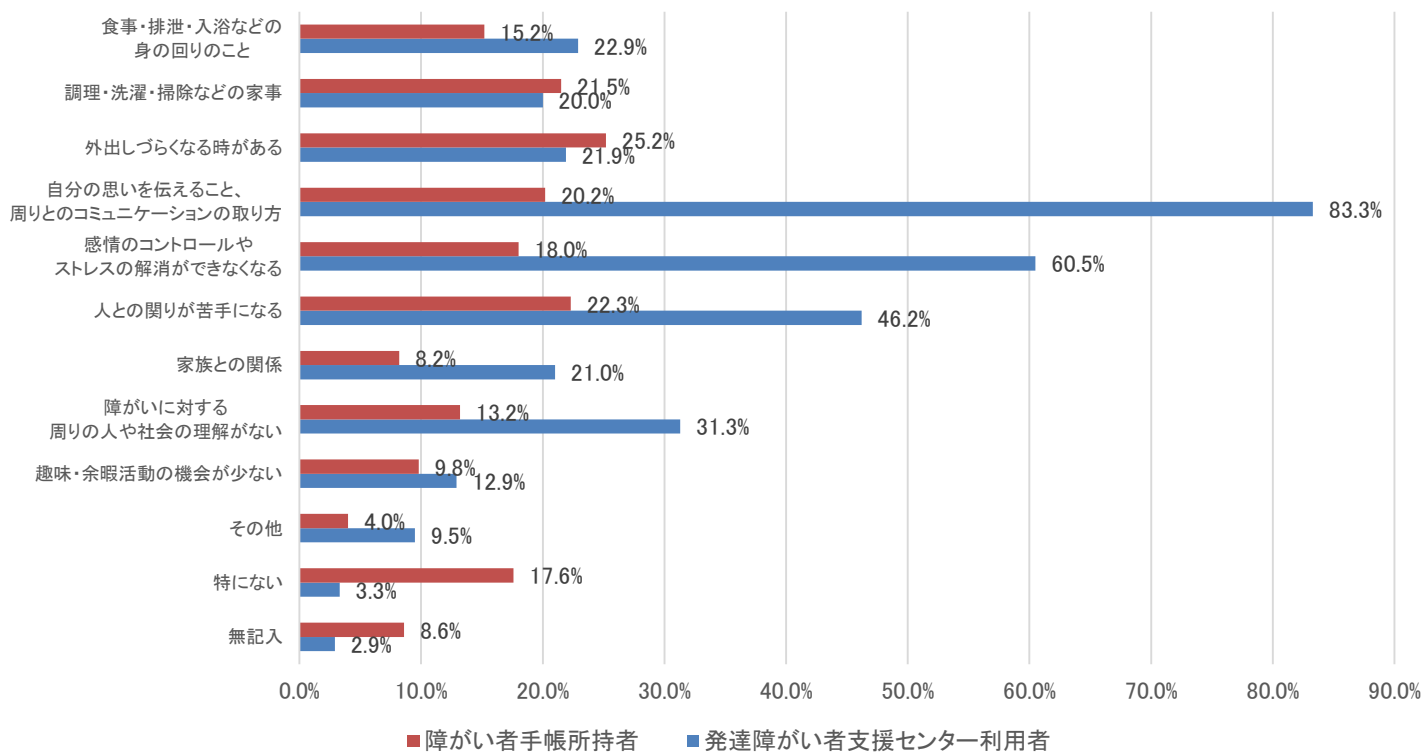
保育や教育で充実してほしいこと(複数回答)



【障がいのある方等】日常生活の困りごと(障がい者等基礎調査:大阪市)

- 日常生活で障がいによって困っていることは、障がい者手帳所持者の2割以上が「外出しづらくなる時がある」と回答し、発達障がい者支援センターの利用者では特にコミュニケーションや人との関わりを挙げる回答が多い。

日常生活で障がいによって困っていること(複数回答)

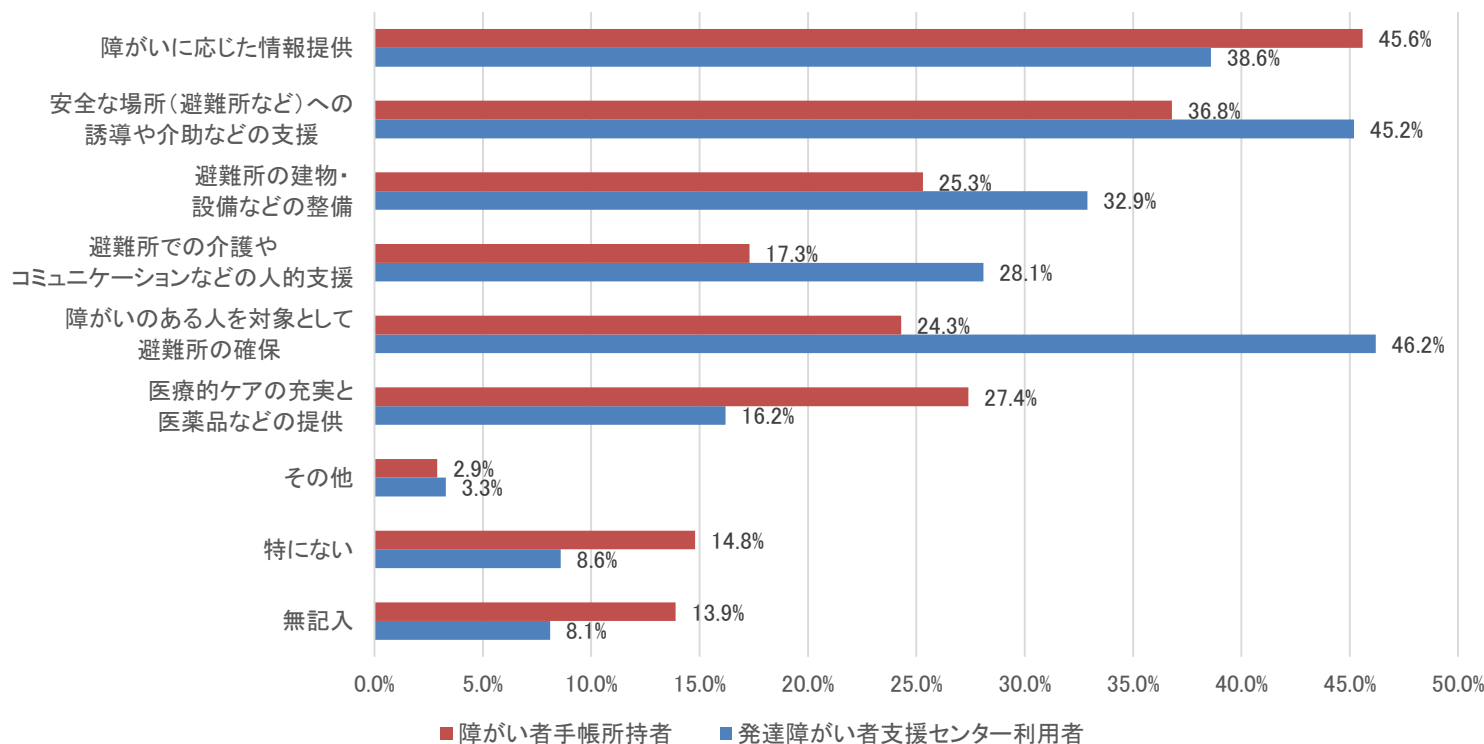


出典: 令和1年度大阪市障がい者等基礎調査報告書

【障がいのある方等】災害時の支援(障がい者等基礎調査:大阪市)

- 地震や台風などの災害時に必要と思うことは、「障がいに応じた情報提供」が多く、発達障がい者支援センターの利用者は「障がいのある人を対象として避難所の確保」も多い。
- およそ5人に1人の方が避難所設備への配慮を必要と感じている。

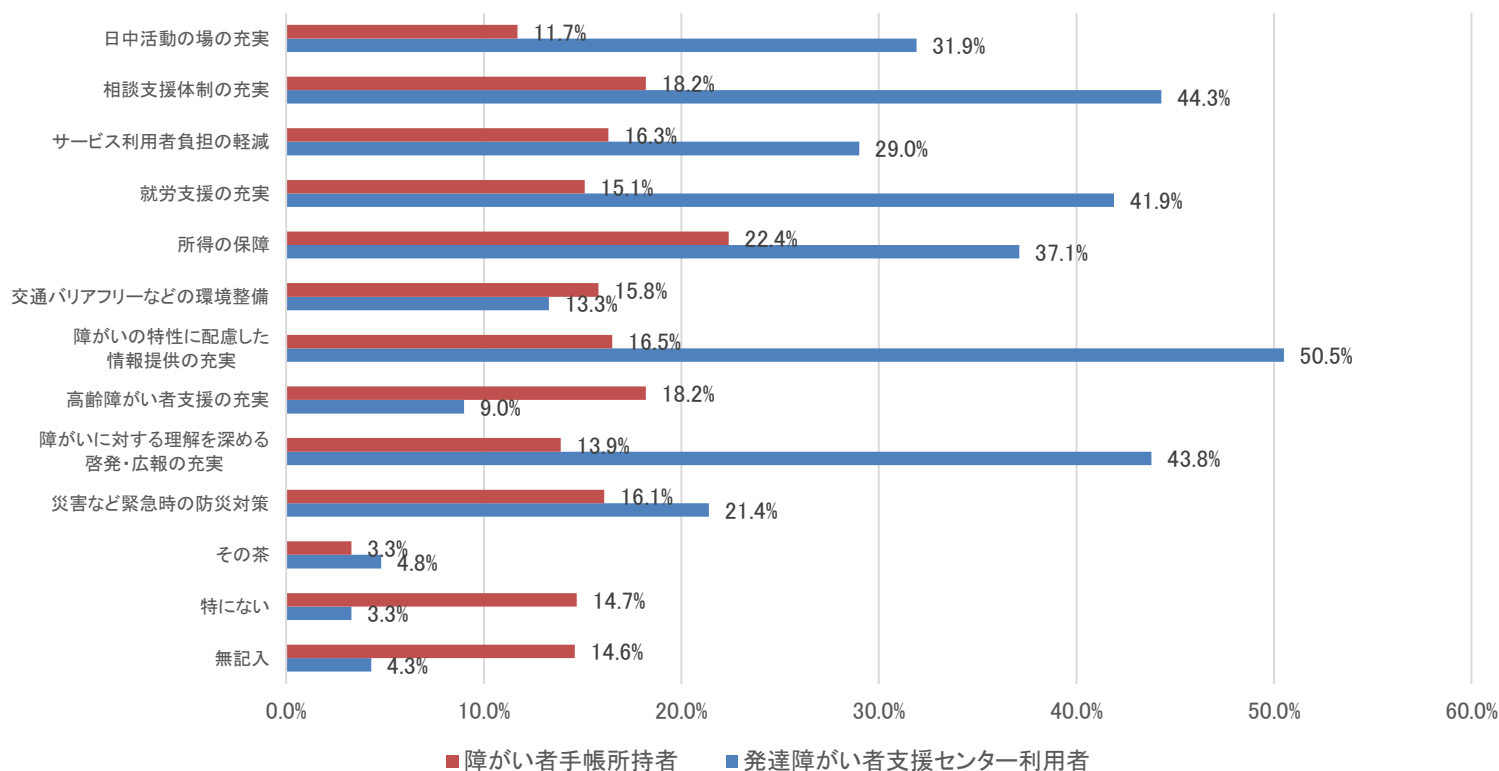
地震や台風など災害時に必要と思うこと(複数回答)



【障がいのある方等】生活全般に望むこと(障がい者等基礎調査:大阪市)

- 障がい者施策全般について望むことは、障がい者手帳所持者で「所得の保障」や「相談支援体制の充実」「高齢障がい者支援の充実」の順に多く、発達障がい者支援センター利用者では、「障がいの特性に配慮した情報提供の充実」が50.5%と多く、次いで「相談体制の充実」「災害など緊急時の防災対策」の順に回答が多い。

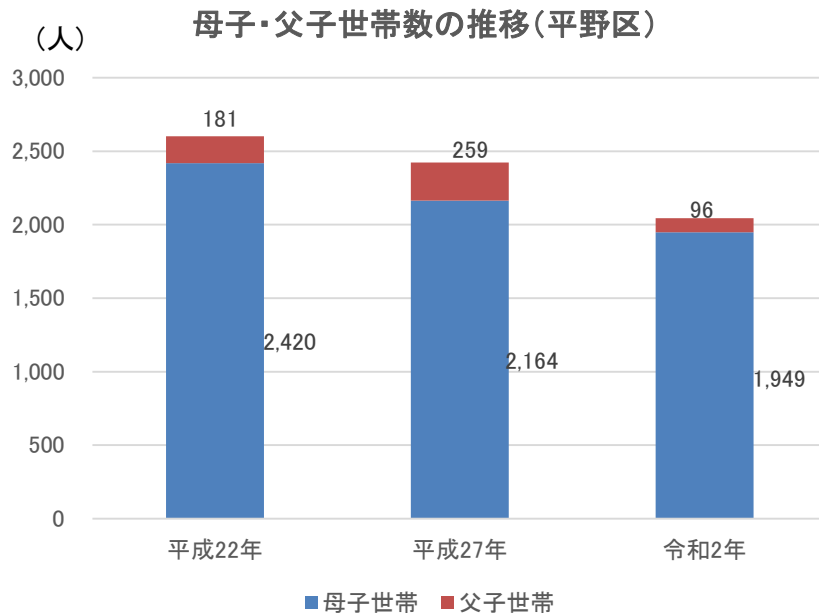
障がい者施策全般について望むこと(複数回答)



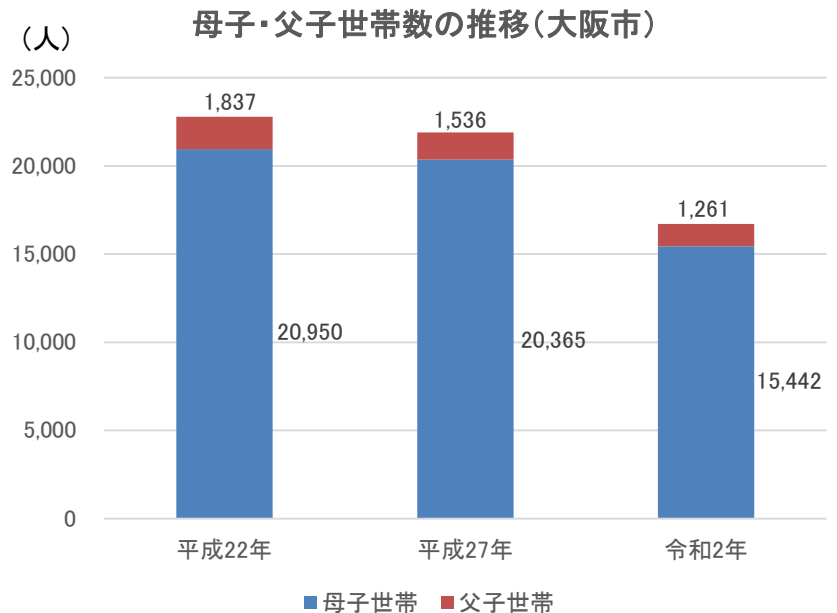
出典: 令和1年度大阪市障がい者等基礎調査報告書

母子・父子世帯

- 令和2年の母子世帯は父子世帯の12.2倍である。平成27年と比較すると、母子世帯は0.73倍に減少している。
- 平野区における令和2年の母子・父子世帯は2,045世帯であり、大阪市の母子・父子世帯(16,703)の約12.2%を占める。



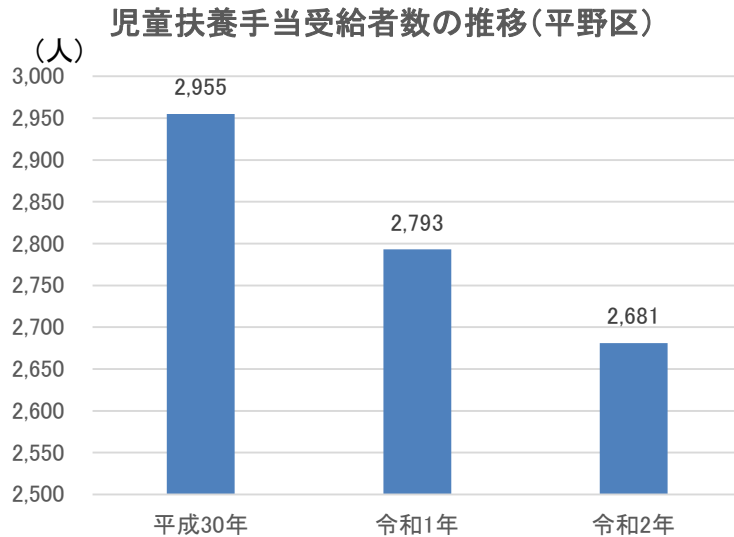
出典: 国勢調査



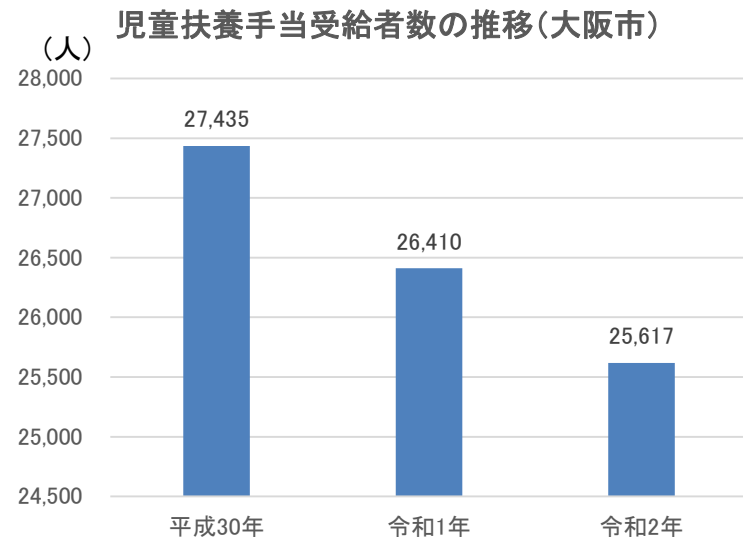
出典: 国勢調査

母子・父子世帯

- 令和2年度の児童扶養手当受給者数は2,681件で、3年間では減少傾向である。



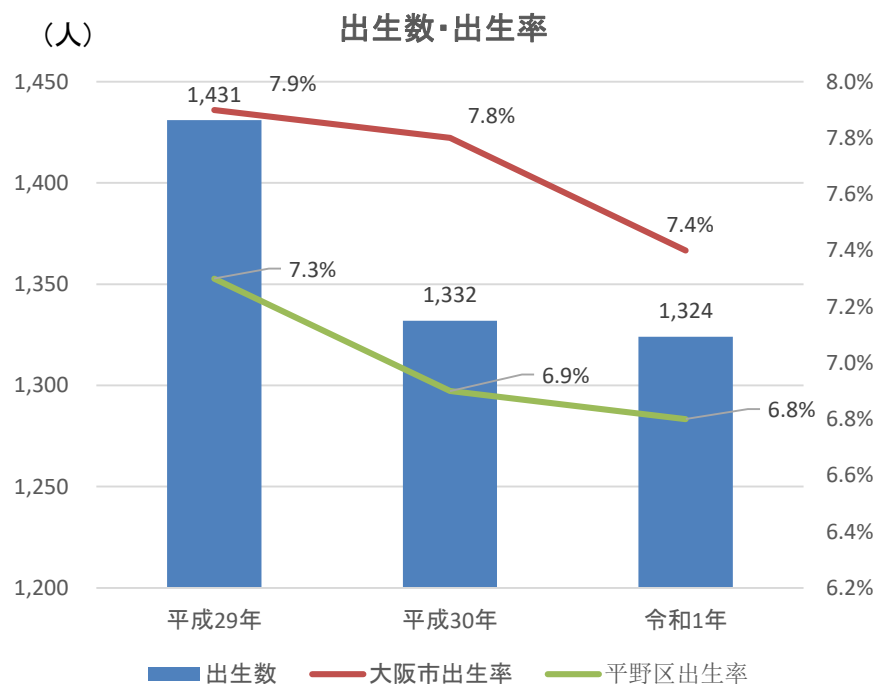
出典:福祉局統計資料
(各年3月31日現在)



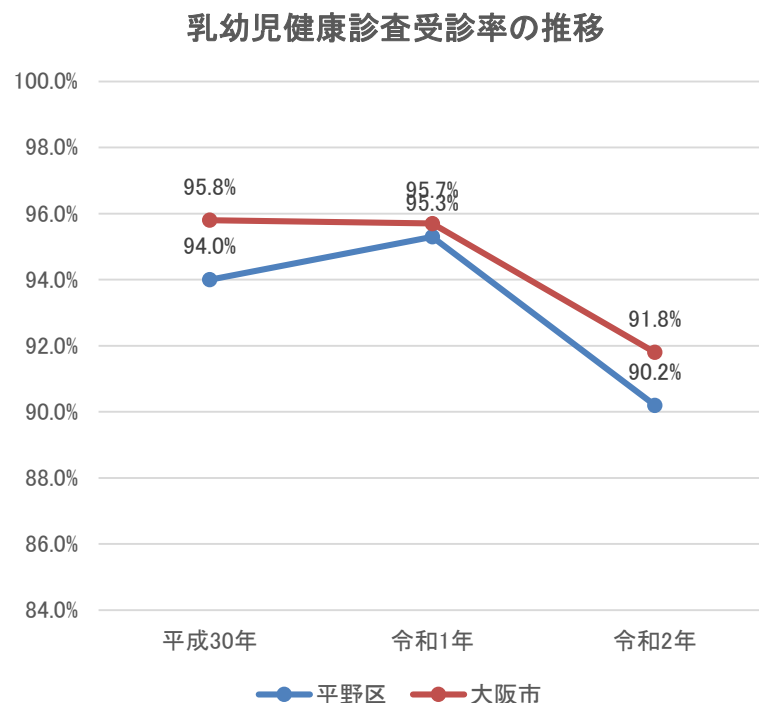
出典:福祉局統計資料
(各年3月31日現在)

出生数・出生率、乳幼児健康診査受診率(0、1.5、3歳)

- 出生率、出生率ともに減少しており、平野区の出生率の市内順位は18位だが、出生数は市内3位である。
- 乳幼児健康診査受診率は、大阪市全体に比べ低い状況である。



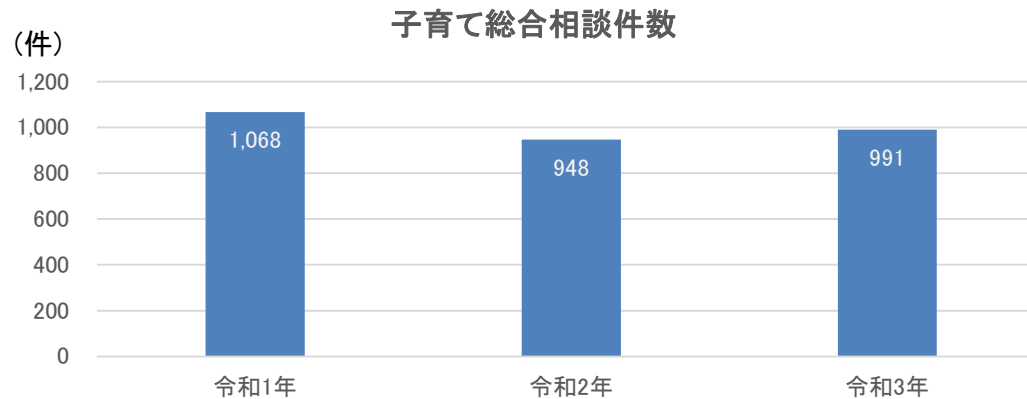
出典：健康局統計資料(各年10月31日現在)



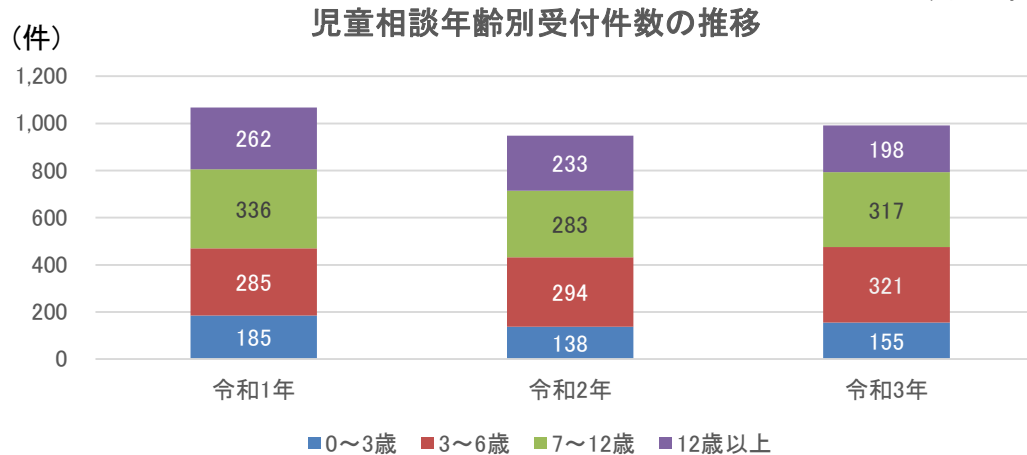
出典：健康局統計資料(各年3月31日現在)

子育ての相談・虐待・DV相談(平野区)

- 子育て総合相談件数は横ばいで、令和3年には991件となっている。
- 就学前年齢の相談が約半数となっている。



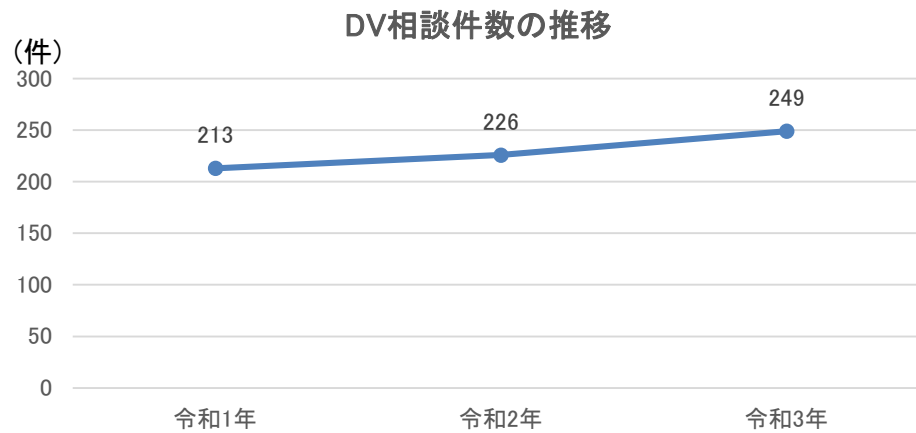
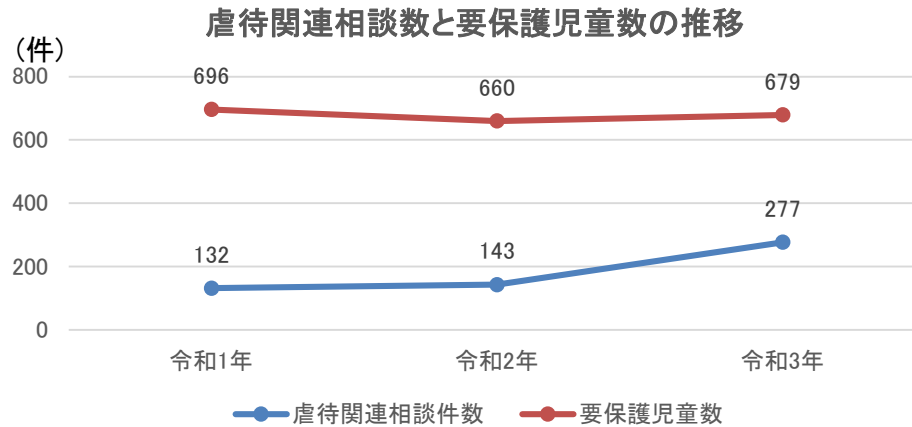
出典:平野区保健福祉センター調べ



出典:平野区保健福祉センター調べ

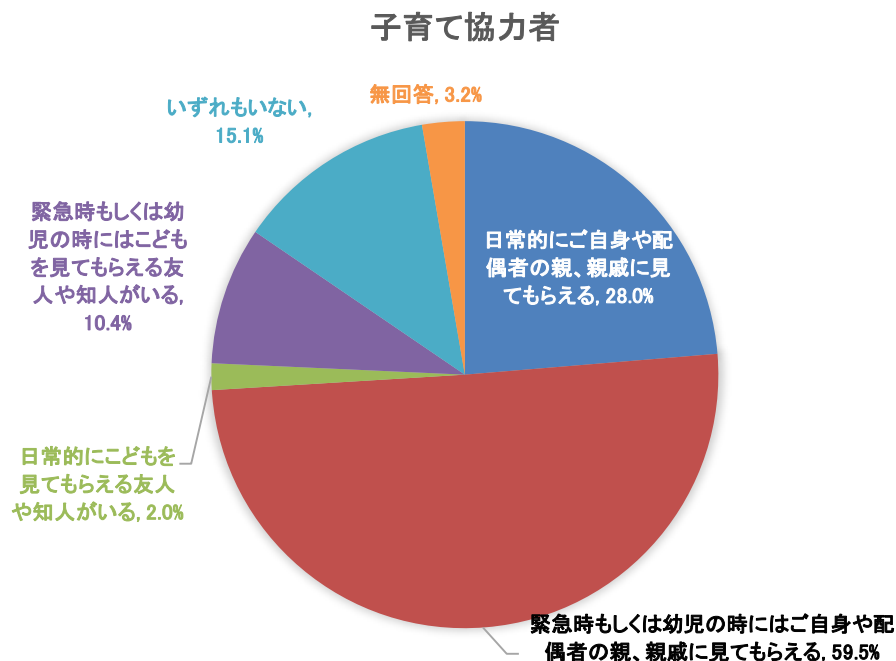
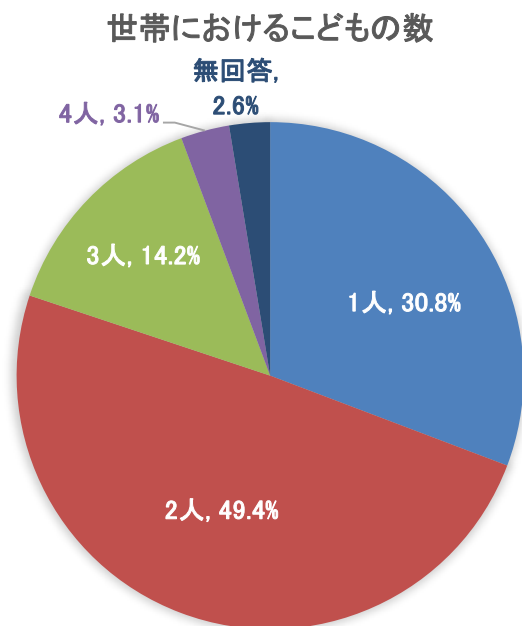
子育ての相談・虐待・DV相談(平野区)

- ・ 虐待関連の相談は増加しており、令和1年に比べると約2.1倍となっている。
- ・ DV(ドメスティックバイオレンス)の相談も増加傾向にある。



【子育て】子育て世帯の状況(ニーズ調査:大阪市)

- ・ 就学前児童において、兄弟のいない子どもがおおよそ3人に1人となっている。
- ・ 約15%人の家庭が、自分たち以外に子育ての協力を得る人がいないと回答している。



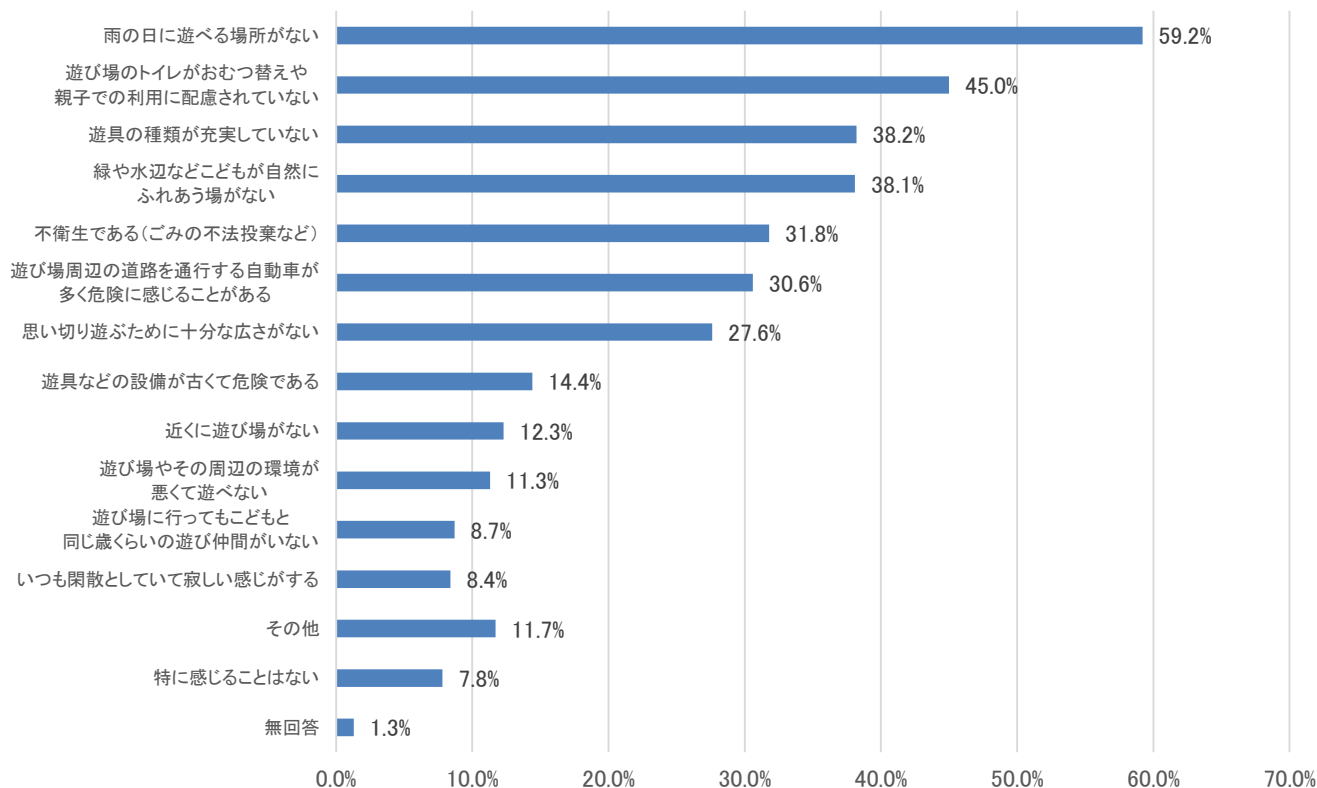
出典:平成30年度大阪市子ども・子育て支援に関するニーズ調査
(就学前児童)

出典:平成30年度大阪市子ども・子育て支援に関するニーズ調査
(就学前児童)

【子育て】子育て支援に求めること(ニーズ調査:大阪市)

- 雨の日に遊べる場所や、トイレやおむつ替えに対応した環境を求める声が40%を超えている。
- 遊び場が不衛生・周辺環境が危険など、安全面に関する回答もある。

こどもの遊び場への要望(複数回答)

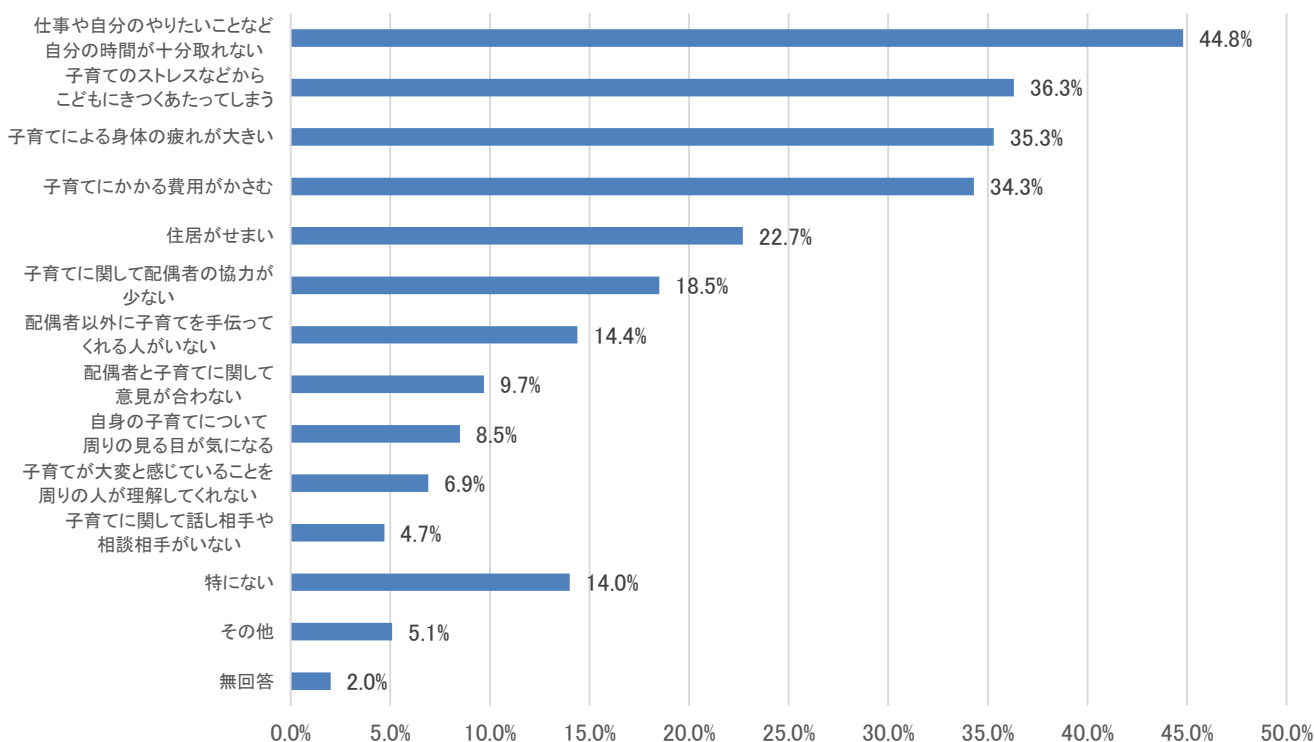


出典:平成30年度大阪市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(就学前児童)

【子育て】保護者が困っていること(ニーズ調査:大阪市)

- ・「仕事や自分のやりたいことに対して十分な時間がとれないこと」に対して4割以上の保護者が困っている。
- ・「ストレスなどからこどもにきつくあたってしまうこと」を回答する保護者が36.3%(約3人に1人)となっている。
- ・子育てで身体が疲れている保護者が35.3%(約3人に1人)となっている。

保護者自身に関する悩み(複数回答)

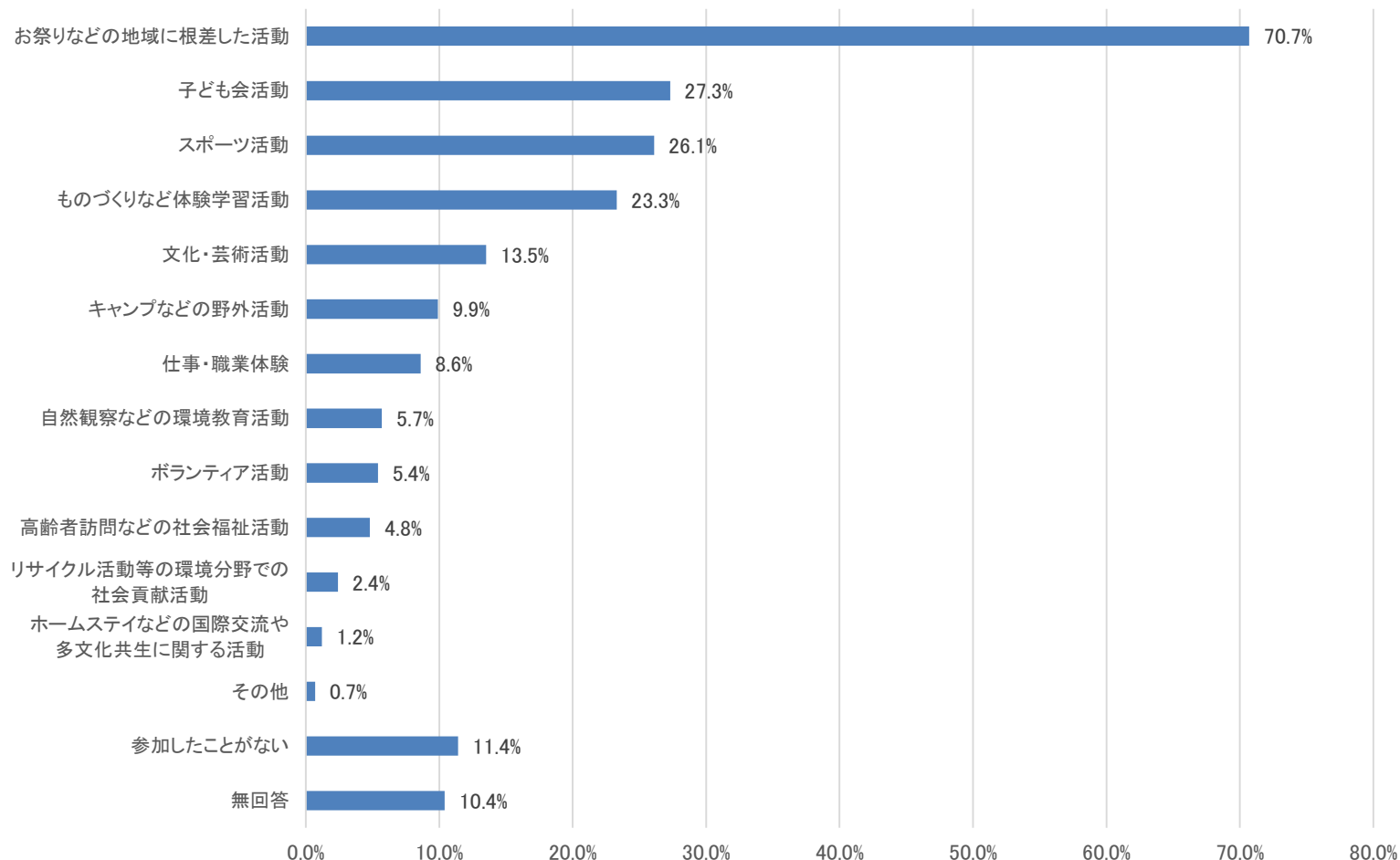


出典:平成30年度大阪市こども・子育て支援に関するニーズ調査(就学前児童)

【子育て】地域の活動への参加（ニーズ調査：大阪市）

- 地域の祭りなどに参加しているこどもが70.7%と多く、次いで子ども会活動に参加しているが27.3%と多い。
- スポーツ活動やものづくり体験などに対する興味が比較的高い。

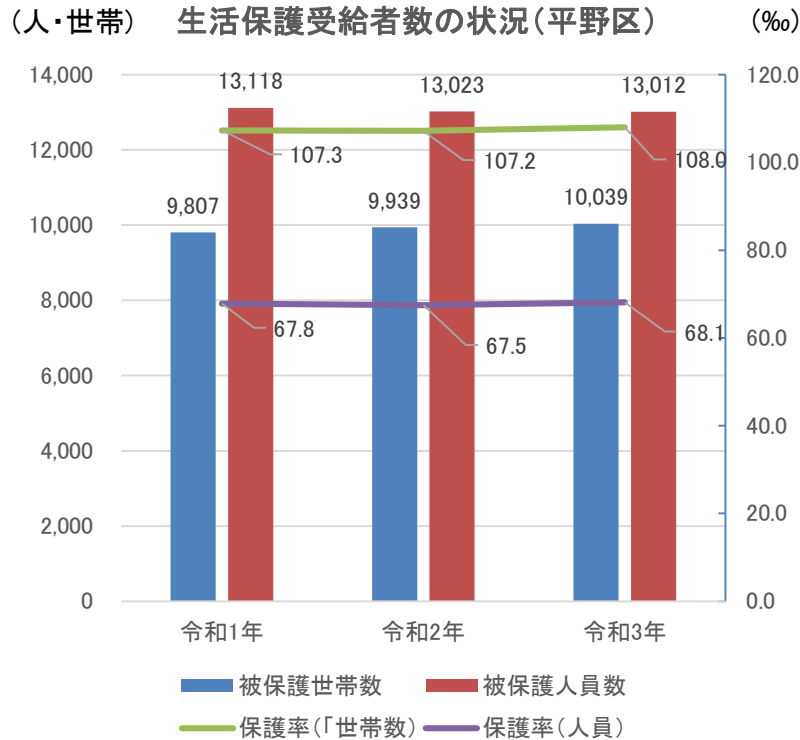
地域のグループ活動やイベントへの参加体験（複数回答）



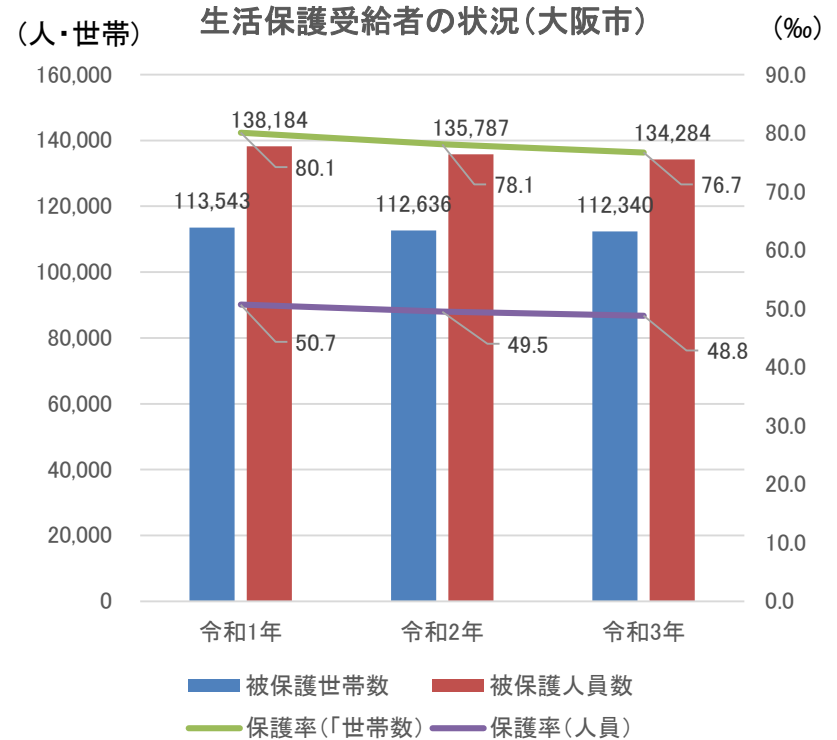
出典：平成30年度大阪市こども・子育て支援に関するニーズ調査（就学児童）

生活保護の状況

- 総保護人員数は微減傾向となっているが、令和3年における生活保護率は大阪市が48.8%であるのに対し、平野区は68.1%と保護率は高い。



出典: 福祉局統計資料(各年3月31日現在)

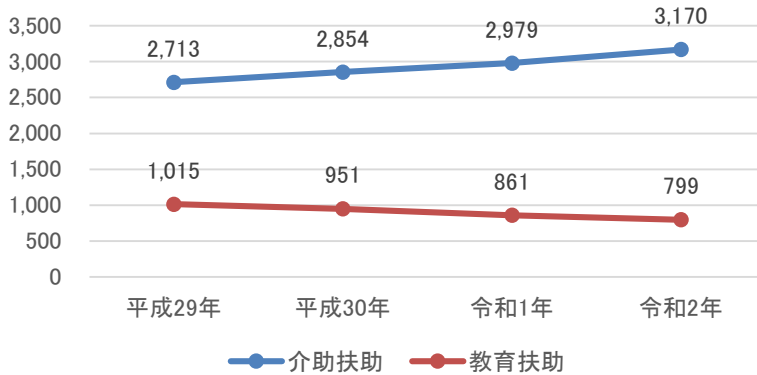


出典: 福祉局統計資料(各年3月31日現在)

生活保護の状況

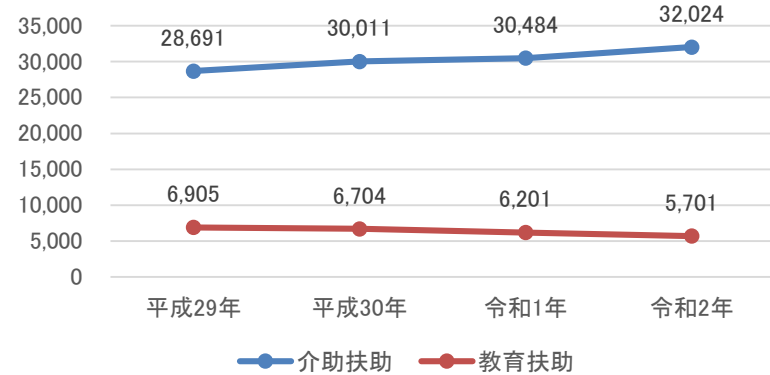
- ・ 扶助別に見てみると、教育扶助・生業扶助を受けているものの割合が比較的高く、小中高校生で生活保護を受けているものの割合が大阪市平均に比べ、高い。

(人) 介護扶助・教育扶助受給者数の推移(平野区)

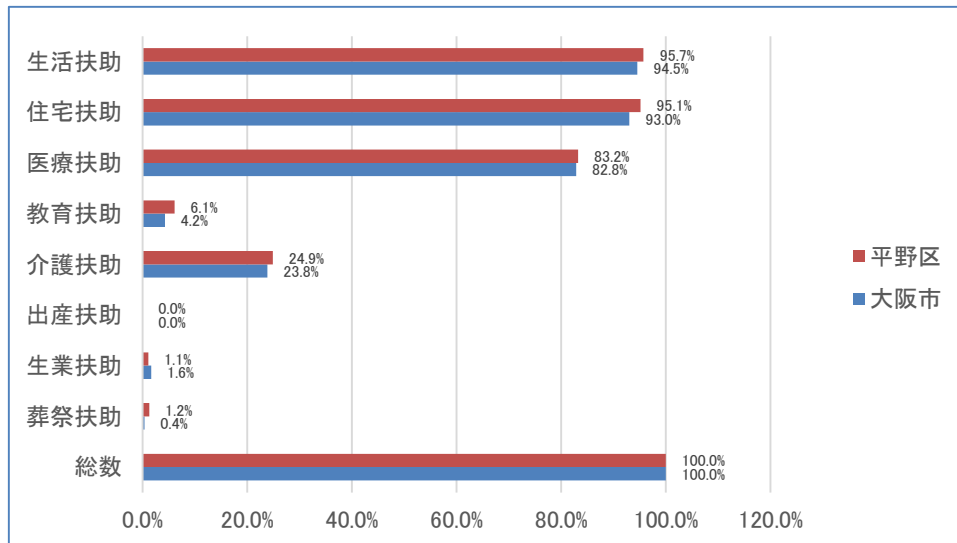


出典:福祉局統計資料(各年3月31日現在)

(人) 介護扶助・教育扶助受給者数の推移(大阪市)



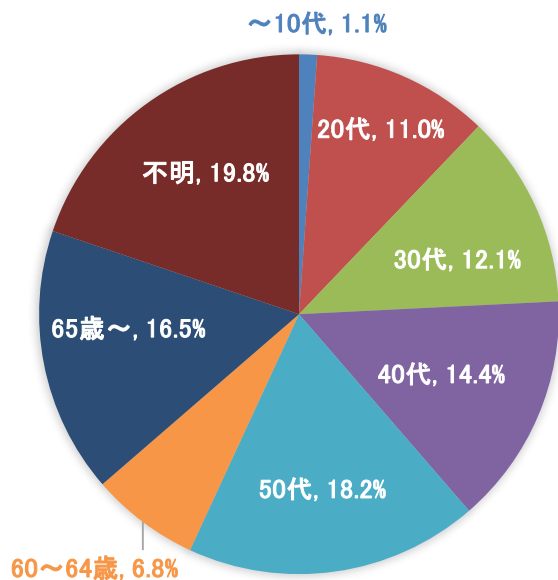
出典:福祉局統計資料(各年3月31日現在)



生活困窮者自立支援事業の状況

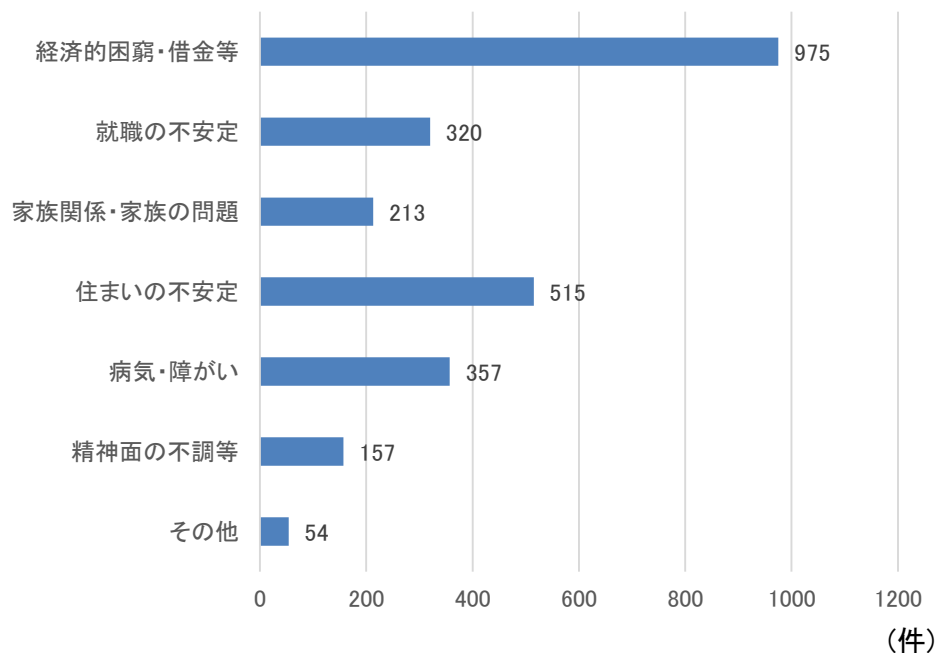
- 生活困窮者自立相談支援窓口利用者の年齢別内訳は65歳以上が最も多く、次いで50代、となっている。相談内容は「経済的困窮」「住いの不安定」の順に多い。

生活困窮者自立支援窓口相談者の年齢
(令和3年4月～令和4年3月)計1,524件



出典:平野区「くらしサポートセンター平野」調べ

生活相談内容の内訳

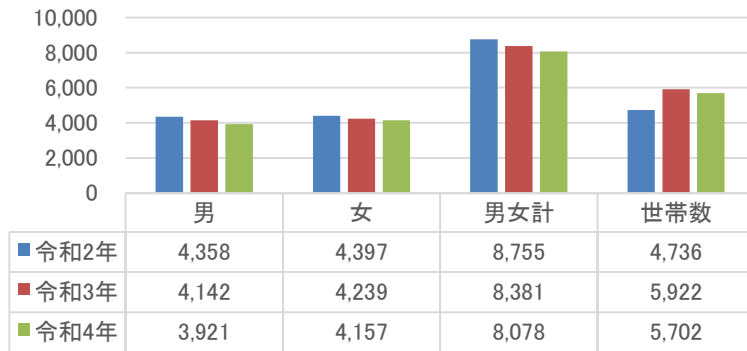


出典:平野区「くらしサポートセンター平野」調べ

外国人人口の状況

- 令和4年3月末時点の平野区について、人口は市内2位、世帯数は市内5位、1世帯あたり人口は市内3位(1.42)。
- 人口、世帯数ともに、平野区は大阪市と同様に増加傾向にある。

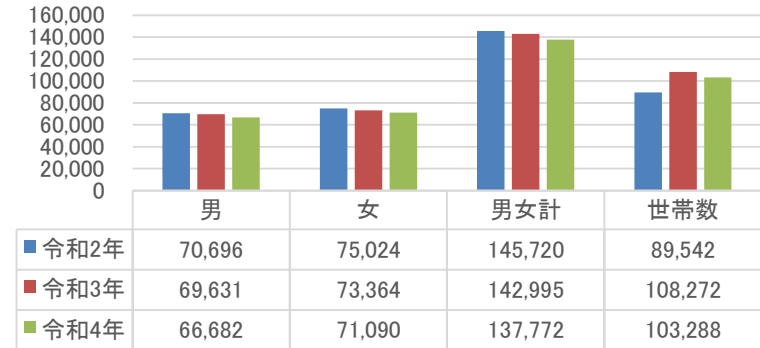
平野区



■ 令和2年 ■ 令和3年 ■ 令和4年

出典: 住民基本台帳人口・外国人登録人口(市民局)

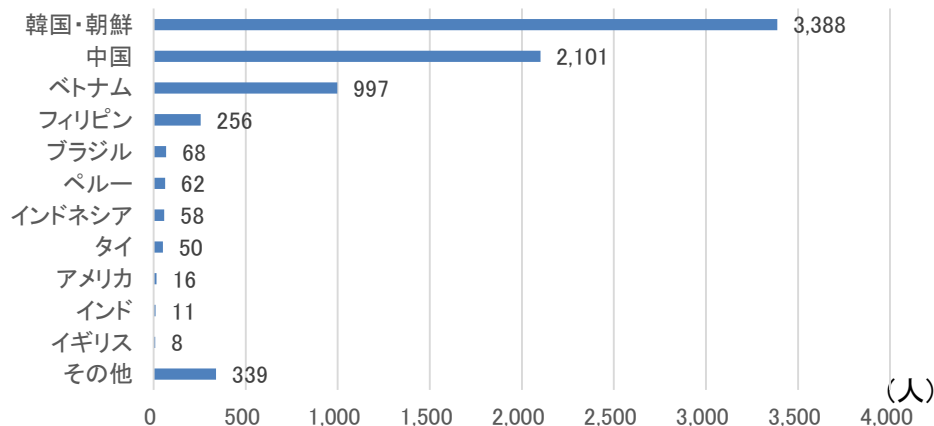
大阪市



■ 令和2年 ■ 令和3年 ■ 令和4年

出典: 住民基本台帳人口・外国人登録人口(市民局)

外国人住民(国籍別)平野区



出典: 令和2年国勢調査